

# 次世代へ・・・



おうみ未来塾 6期生の記録

表紙写真撮影 松村 勝 (環境写真家)

おうみ未来塾6期生活動記録誌

# 次世代へ・・・



2004年6月6日～2005年3月11日

目次

|                                |     |
|--------------------------------|-----|
| 1. おうみ未来塾 第6期生に向けて             | 1   |
| 2. おうみ未来塾 塾是                   | 2   |
| 3. おうみ未来塾第6期 塾長・運営委員の紹介        | 4   |
| 4. おうみ未来塾 第6期生の2年間             | 5   |
| 5. おうみ未来塾 第6期生の仲間たち            | 10  |
| 6. グループ研究活動                    |     |
| 第6期生グループ研究活動（全体）               | 11  |
| ① 市民参加による八幡山(はちまんやま)の修景活動の取り組み | 15  |
| ② 地域の防災防犯活動支援                  | 35  |
| ③ 長命寺参詣古道                      | 55  |
| ④ 「ひとりから始まる」子育て支援の地域プロデュース     | 67  |
| ⑤ ピワマスを琵琶湖のシンボルに育てる            | 79  |
| ⑥ 老後サポート隊                      | 101 |



## テーマ型市民組織とエリア型市民組織

おうみ未来塾運営委員長  
北村 裕明  
(滋賀大学教授)

NPOやボランティア団体のようなテーマ型市民組織が、地域で事業を展開しようとする場合、自治会や学区のようなエリア型市民組織との関係の結び方が大切です。

成果を生み出しているまちづくりを観察してみると、テーマ型市民組織の創意的な活動が、エリア型市民組織の活動に刺激を与えて、事業が多様に展開されています。たとえば、農村部におけるグランドワーク型まちづくりの先進事例である甲良町では、むらづくり委員会というテーマ型市民組織の地区計画づくりが、自治会の活動を活性化させ、集落内の資源が再発見され様々な事業が行われてきました。防犯や、子育て支援や、高齢者福祉等の事業も、地域内で有効な事業展開を考えれば、エリア型市民組織との連携が不可欠となってきます。それは、テーマ型市民組織が行う事業が、地域の人々にとって必要な共同業務として受け入れられ、それを契機として地域の共同業務の再発見が行われるからです。

逆にエリア型市民組織が、地域の共同業務を有効に担おうとすれば、当該地域内外のテーマ型市民組織との連携が必要となってきています。滋賀県内では学区単位の計画づくりの先進例といえる草津市山田地区の計画づくりをみると、地域の多様なテーマ型住民組織と学区内自治会の有機的な連携を見て取ることができます。それは、テーマ型市民組織が持つ専門性が、地域づくりに必要不可欠だからです。こうした事例は、滋賀県内に近年比較的多く展開されてきた介護NPOとエリア型市民組織との関係にもあらわれています。大津市坂本地区の「はな」という介護NPOと地域との関係はその典型であり、宅老所や通所介護事業活動等を通して、地域の高齢者福祉の水準を大いに高めるのに貢献しています。

皆さんが地域プロデューサーとなるために学んでこられたことは、地域の問題を発見し、政策化し、地域で事業を起こすことです。そのためには、事業を起こす仲間との事業の使命(ミッション)の共有だけでなく、そのミッションを地域の多くの人にも共有してもらわねばなりません。事業を実施しその成果を広めながら、テーマ型市民組織とエリア型市民組織との連携を強めることが、地域プロデューサーの大切な仕事なのです。卒塾後の皆様の活動が、そのような視点で行われることを期待いたします。

## おうみ未来塾 塾是

|     |        |
|-----|--------|
| 発 想 | 意 欲    |
| 実 践 | ネットワーク |

### 基 本 理 念

おうみ未来塾は、新しい地域課題に取り組む魅力ある新しいリーダーを「地域プロデューサー」として位置付け、「地域プロデューサー」が育つ塾を目指しています。

「地域プロデューサー」とは、地域の問題を発見し、解決のための方策を考え、そのための運動や事業を興すことができる人、言い換えれば、問題発見力と政策形成力と実践力を兼ね備えた人です。こうしたプロデュース力にコーディネート力や組織運営力を加えたリーダーシップを養うことを中心に取り組みます。

- 地域社会の新しい課題を発見し、政策化し、運動や実践に結びつけることができるリーダーが育つことを目指します。
- 塾生の主体的な参加による塾づくりを基本とします。
- 地域や分野を越えての多彩な塾生で構成します。
- 可塑性を持ったカリキュラムづくりによる創造力を養います。
- 幅広いネットワークの形成を目指します。
- 講義を聞き、実践例を学び、地域で実践します。

## 「塾運営の基本」より（抜粋）

### 塾運営の基本

- ・「実践・自主・継続」を基本に、塾生が自己研鑽と相互啓発により地域社会の担い手となる資質を養います。
- ・幅広いネットワークを形成する場となるよう運営します。
- ・ノウハウを与える場ではなく、塾生が主体的に取り組んで自ら築いていく場となるよう運営します。

### 研修期間

- ・研修期間は2カ年とし、1年次は講義とフィールドワークを中心とし、2年次はグループ研究を中心として、塾生が自ら取り組みます。

### 講義・フィールドワーク

- ・知識を深め、これにより塾生が考えをまとめる場であり、討論をする場でもあります。1日1講義（土曜または日曜の半日）で月1回を基本とします。  
なお、講義のねらい、開催日等については、塾生内で意見を出し合い、幹事会で話し合いながら調整します。

### サブ講義

- ・おうみ未来塾卒塾生をはじめ、県内で市民活動をしておられる方を招いたり、訪問し、サロンのような雰囲気をつくりながら、活動の紹介や思いなどを語っていただき、交流を図るなどを企画します。おおよそ月1回、平日夜を基本とします。

### グループ研究

- ・グループ研究は、塾生が提案・選考する現実的課題について、グループで調査や考察を重ね、行動提起にまで及ぶことを期待しています。
- ・研究活動を円滑にするため、指導・助言できる人を各グループの希望に応じて配置します。
- ・目標発表会、中間発表会、研究成果発表会を開催します。

### 塾生会等

- ・第6期の塾生全員による塾生会を組織します。塾生会は自分の活動情報を広く他の塾生に周知して、より交流を深める場とします。
- ・幹事は常に塾生の意見を集約し、運営委員会や事務局と連携を密にし、カリキュラム等に意見を反映するものとします。
- ・塾の2年間の成果を記録します。  
自分たちが何を考え、どう行動に移せばいいのかなど、講義の内容だけでなく、経過等も含め、報告できる内容のものを塾生が考えて編集するものとします。
- ・開講式や卒塾式、発表会、塾生全員を対象とする講義等の録音、写真撮影については事務局が行います。  
その他のグループ研究、現地研修などの記録は、塾生会で行ってください。

塾長 日高敏隆 さん  
(元滋賀県立大学学長、動物行動学者)



運営委員長 北村裕明 さん  
(滋賀大学教授)

運営委員 岡崎昌之 さん  
(法政大学教授)



運営委員 岸田真代 さん  
(NPO法人パートナーシップサポートセンター代表理事)

運営委員 辻川作男 さん  
(おうみ未来塾1期生、  
NPO法人ギャラリーシティ楽座理事)



運営委員 藤井絢子 さん  
(滋賀県環境生活協同組合理事長)

4 おうみ未来塾 第6期生の2年間

2004年

6月6日(日) 第6期入塾式/アヤハレークサイドホテル  
開講記念講義「イリュージョンと世界認識」  
塾長 日高敏隆(総合地球環境学研究所長)



6月27日(日) 講義/ピアザ淡海 県民交流センター  
ワークショップ「コミュニケーション」  
指導 初田元明(CAP・ネットしが)  
「地域プロデューサーの時代」  
講師 北村裕明(滋賀大学 副学長)



7月31日(土) 講義/龍谷大学瀬田キャンパス  
「まちづくり概論 ~全国の事例から~」 一公開講座一  
講師 岡崎昌之(法政大学教授)



8月28日(土)、29日(日) 合宿「地域経済おこし フィールドワーク」  
／坂田郡 伊吹町内(現 米原市)

指導 井口 貢(京都橘女子大学教授)  
谷口隆一(伊吹町農業振興課長)  
谷口 康(伊吹町上平寺地区)、 鳩代利博(伊吹町甲津原地区)



9月23日(木・祝) 講義／ピアザ淡海 県民交流センター  
「課題発見と問題解決のプロセス」

講師 岸田真代(NPO法人パートナーシップ・サポートセンター代表理事)



10月2日(土)、3日(日) フィールドワーク「長浜のまちづくり」／長浜市内

指導 辻川作男(NPO法人ギャラリーシティ楽座理事)  
清水義康((財)長浜観光協会事務局次長)  
西川丈男(曳山博物館・長浜市教育員会歴史文化課)



11月20日(土) 講演会/草津市立まちづくりセンター  
「地域プロデューサー精神の夢と情熱」 -公開講座-  
講師 国枝哲男 (NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸事業部長)



11月21日(日) フィールドワーク「地域づくりの可能性」/  
愛東マーガレットステーションおよび周辺/愛東町 (現東近江)  
指導 藤井絢子 (滋賀県環境生活協同組合理事長)  
野村正次 (愛東町総務住民課)



2005年

1月23日(日) 講義/「しゃくなげ学校」(蒲生野考現倶楽部)日野町  
「地域をプロデュースすること」  
講師 北川憲司 (滋賀県地方自治研究センター常任理事)  
井阪尚司ほか (NPO法人蒲生野考現倶楽部理事)



2月13日(日) ワークショップ /ピアザ淡海 県民交流センター  
「プレゼンテーション指南」  
講師 山口洋典 ( (財) 大学コンソーシアム京都 研究主幹 )  
5期生・6期生合同研修



2月～3月 塾生討論

2年目活動テーマについて / 守山、草津、ピアザなど (5月まで継続して実施)

3月

テーマ調査 滋賀県、草津市ほか自治体関係 ヒアリング (～5月まで継続)



6月 ～ グループ活動の実践、塾生会議 (随時)



10月27日(木) 公開講義 /草津市立まちづくりセンター  
『『臨地まちづくり学』のすすめ』  
講師 織田直文(京都橘大学文化政策学部 教授)



11月3日(木・祝) グループ活動中間発表会 /コラボ21しが



2006年

3月11日(土) おうみ未来塾活動発表会 /ピアザ淡海 県民交流センター



(敬称は省略。所属等は開催時点のもの)

荒川 進

あらかわ すすむ

大塚 了

おおつか さとる

高橋 潔

たかはし きよし

西岡 信夫

にしおか のぶお

平井 育恵

ひらい いくえ

湧口 正男

ゆうぐち まさお

一色 三郎

いっしき さぶろう

川端 悦子

かわばた えつこ

坪内 稔夫

つぼうち としお

西村 忠幸

にしむら ただゆき

松井 文子

まつい あやこ

吉野 和

よしの むつみ

今井 洋

いまい よう

小寺 實

こてら みのる

戸田 雄一

とだ ゆういち

原田 友美

はらだ ともみ

村西 耕爾

むらにし こうじ

吉原 史雄

よしはら ふみお

# 第6期生 グループ研究活動 (全体)

2年目のグループ活動にあたり、塾生は活動テーマおよびグループ分けについて12月頃から3月頃まで議論を行いました。各自の思いと実践プログラムは多様であることを相互に理解するなかで、関心テーマでグループが独立することから1年目に培ってきた6期生全体の一体感が失われることを誰もが危惧しました。このため、塾生会での話し合いを持ち、6期生全体の統一テーマを設定すること、塾生会の継続と各グループに分かれても出席することに合意し、より一体感を失わないよう努力しました。

統一テーマについては、各自の問題意識を出し合い、共感するテーマへの議論と集約を経て、6期生のグループ活動の統一テーマを「次世代」と決定しました。そして、統合テーマとそれに至る議論を踏まえて、塾生がグループ活動の内容と6つの個別テーマを設定しました。

そして、塾運営委員からの助言・指導を得ながらそれぞれ活動計画を立て、おおよそ一年間のグループ活動を実践していきました。

(光)

## 第6期生 グループ研究活動（全体）

どこまで盛り込みたいか

グループ研究テーマの説明

**おうみ未来塾**

地域プロデューサー、地域課題に取組む魅力ある地域リーダーの育成

↓  
求められる力

地域課題の発見：**問題発見力**  
 解決方策の考案：**政策形成力**  
 事業取組の推進：**実践力**（リーダーシップ\*）  
 +  
**コーディネート力**  
**組織運営力**

時間の確保を促す

グループ研究テーマの説明

**グループヒンク**

この指たかれ式を基本  
 入塾目的・目標の確認  
 各自テーマ提案  
 次世代育成取上げの動向  
 既に活動計画の進む時期  
 グループヒンク調整

→ 統合テーマ  
次世代

類似体験を重視

グループ研究テーマの説明

**グループヒンク**

この指たかれ式を基本  
 入塾目的・目標の確認  
 各自テーマ提案  
 次世代育成取上げの動向  
 既に活動計画の進む時期  
 グループヒンク調整

→ 統合テーマ  
次世代

→ 対自然タイプ  
と  
対ひとタイプ

地域の価値を活かす

グループ研究テーマの説明

**「自然テーマ」**

①『長命寺参詣古道』  
 （川端・松井）  
 ②『美しい里山の創出を目指す』  
 （村西・松井）  
 ③『ピワマスを琵琶湖のシンボルに  
 育てるグループ』  
 （西岡・高橋・坪内・吉原・今井・松井）

地域と人の繋がりを

グループ研究テーマの説明

**「ひとテーマ」**

④『大津市域の子育てネットワーク形成』  
 （平井）  
 ⑤『老後サポート隊』  
 （一色・荒川・戸田・吉野）  
 ⑥『地域の防災・防犯活動支援』  
 （小寺・大塚・原田・吉野・湧口・西村）

6期生の性格

グループ研究テーマの説明

**反省点**

- ・幹事会を機能させ得ず、地域性が出せず
- ・定例会出席率が悪く、少数意見で経過
- ・協働テーマづくりが難しく、運営に困難性あり
- ・塾外交流が組めず、個々の交流懇談不足
- ・連絡・通信手段の有効活用が不足
- ・初期・中途退塾意向に対して、打つ手無し

# 市民参加による はちまんやま 八幡山の修景活動の 取り組み

美しい里山の創出を目指すチーム

メンバー

村西耕爾、 松井文子

近江八幡市にとって八幡山は、市街が造られた元となった歴史的な意味を持ち、八幡堀と併せて観光的シンボルであります。その存在は、人々の信仰と行事にもしっかりと根を下ろしています。緑に覆われた遠景からの美しさとは異なり、人が近づく麓周辺から森のおくまで竹や常緑雑木が繁茂し、生き物の棲息環境や景観は悪化してきました。人が山に入ることがなくなると荒れていく森林の例を目の当たりにして、これ以上の悪化を食い止める必要を感じました。

今のおとな達が子どもの頃、野外遊びを通じて学び、育ってきた里山の環境を、次の世代に渡したい。子ども達が安全に野外遊びができ、美しい里山景観を取り戻したい。そのために、保全活動が続けられる仕組みをつくり、伝え残していく取り組みです。

この活動を通じてネットワークを築き、元気な市民がたくさん生まれてきました。活動の活性化によって、さらに近江八幡のブランド価値が高まるよう取り組んでいきます。

おうみ未来塾6期生グループ研究企画書  
 《2006. 3. 11/ピアザ淡海 卒塾発表会》

|              |   |
|--------------|---|
| グループ名        | 美しい里山の創出を目指すチーム   |
| グループ員        | 村西耕爾・松井文子   |
| 代表者氏名<br>連絡先 | 村西耕爾<br>〒523-0861 近江八幡市仲屋町元24<br>TEL0748-32-2615<br>Eメール ; koji2615@tiara.ocn.ne.jp   |
| テーマ ;        | 《市民参加による八幡山の修景活動の取り組み》<br>～次世代に美しい里山景観とその保全の仕組みを残す為～  |
| 趣旨・目的        | <p>国の『重要文化的景観』の全国第一号に選ばれた近江八幡の水郷、そしてその町の歴史的・観光的シンボルである八幡山が、竹や常緑雑木で覆われて景観が年々悪化しています。昔は風呂や炊事の為の薪（たきぎ）取りの為に、山の雑木林は大切に守られ管理されていました。然し主に化石燃料に取って代わられると共に、全国の里山の荒廃が進み出したと言えます。人の手の入らなくなった自然林はひたすら荒れていくばかりであり、折角の貴重な資源が劣化していく状態に歯止めをかける必要があると考えます。</p> <p>そこで今回、広く市民有志に呼びかけて、町に隣接する八幡山の景観を守り更に良くする活動に取り組みたいと思い立ちました。</p> <p>具体的には適度な間伐と、一方では計画植樹（紅葉・桜・椿・ツツジ・石楠花・くぬぎ等）を進める事により、子供達も野外遊びが出来る明るく安全な里山、そして美しい里山景観を創出し、その保全の仕組みを次世代の人達に伝え残していく事が目的です。</p> <p>又その活動を通じて、あらためて市民活動のネットワークを築き、近江八幡の活性化（活発な市民活動と元気市民）と、市としてのブランド価値の向上を目指したいと思ひます。</p> |

## 活動内容

### 1. 活動の母体として

『八幡山の景観を良くする会』の発足 (H17.4～)

#### 会員募集 (巾広く作業参加者を募る)

- ・ 市民有志に声をかけ、趣旨に賛同頂ける方を集めて順次作業に着手。市役所の広報他でボランティア参加案内予定・市内の定年退職者で活動的な人達へ呼びかけ⇒健康推進友の会・おやじ友の会・サルビア会・生き生き倶楽部・15会など、近江八幡社協の各メンバーが趣旨に賛同し参加。
- ・ 現在約50人が作業参加登録者
- ・ 平成17年4月の作業開始以来、20回の作業で延べ340人参加
  
- ・ 今後、ホームページなど作成により、更に広く作業参加者を集めていく予定 ⇒ HP 製作中

### 2. 各分野の専門家にも参加いただく

- ・ 八幡山全体の景観はどうあるべきか？ランドデザインする専門家  
⇒京都府立大学環境デザイン学科 深町助教授に依頼済み
- ・ 行政や地権者も交えての討議⇒ 12/19第一回打ち合わせ会  
近江八幡市公園課・農政課・環境課、近江鉄道と合同検討会議
- ・ 山仕事のプロ
- ・ 樹木・竹等の専門家、木工細工、竹・蔦細工の専門家
- ・ 野鳥 (鳥の好む実のなる木や営巣に適する環境整備) や野草草花の専門家、昆虫博士 (カブト虫やクワガタ虫、鈴虫・邯鄲など)
- ・ 野外遊びのインストラクター ⇒ 地球野外塾 二名校長作業参加 (子供達の野外遊びの体験学習指導)



### 関連市民活動団体との情報交換

- 近江八幡市の退職者の各グループとの協調と親睦を図ってゆく
- 同ジャンルの市民活動団体である、水と緑の市民環境会議、遊林会、淡海森林クラブ、蒲生考現倶楽部などとの情報交換、山作業のコラボレーション  
滋賀県東近江振興局とのコネクション構築
- 八幡住民みんなの山という観点から、近江八幡のまち振興に既に取り組んでおられる市民活動団体（八幡堀を守る会、秀次クラブ、観光ボランティア協会等）とも広く連携を深めて、一体的な取り組みで、まちの魅力付け  
広域的な観光資源開発が出来る様に協力関係を築いていく（広義の活動領域）
- 近江八幡の『景観』保全を考える人達との新規交流の場を模索  
（安土・八幡の文化的景観保存活用委員会 など）

### 活動のための資金捻出法

- （計画植樹・作業機材購入・作業工作指導料・ボランティア保険）
- 企業スポンサーを広く募集する
  - みんなの山の愛着を持ってもらう為、市民より賛同者を募る
  - 国・県・市などから植樹木の提供を受ける
  - NPO 補助金や各種財団法人（里山保全活動資金）からの献金
- |             |                      |
|-------------|----------------------|
| * 近江八幡市     | 30万円（協働型環境まちづくり支援事業） |
| * コムケアセンター  | 10万円（全国の市民活動のアシスト）   |
| * 市内一般企業寄付金 | 20万円（会の活動趣旨に賛同）      |

合計60万円

- 本年3月八幡小学校4クラス、近江兄弟社学園1クラスで卒業記念植樹  
実施予定 ⇒ 桜5本八景会から提供し、八幡山公園内に植樹する
- 子供の誕生日などの記念植樹を呼びかける

永続的な取り組みをする為の組織構築

- 中心的なメンバーによる、中長期の活動計画（上記活動の日程落とし込み）や役割分担など、永続的な取り組みが出来る組織運営。  
⇒ 幹事会8人で構成、今迄で六回の幹事会開催し討議決定
- よりオープンで、永続的・発展的な組織を作ります
- 組織の老化を防止するため、毎年の定年退職者を募集すると共に、若年者も会員として加わってもらう（土日・祝日開催など検討）

《おわりに》

近く迎えることになる少子高齢者社会の中での中小自治体の課題は、医療・福祉費用の増大による自治体財政の極端な悪化です。社会の負担能力を担保するには、少子化対策を打つと共に、人口減少に歯止めをかける（新規流入人口を増やす）施策として、まちそのものの魅力を上げる必要があります。

又定年退職者が新たな地域コミュニティに参加し、ボランティア活動等を通して、新しい仲間づくりと社会貢献に活発な活動を展開する事は、我々高齢者の社会的再資源化の意味合いと共に、《予防介護》の面でも重要と思われま

す。近江八幡市は豊かな自然環境と共に歴史・文化面でも優れたものがあります。一方市内には213もの市民団体があり、所謂2007年問題と言われる団塊世代の定年退職者にとっても、多岐に亘る活発な市民活動は、彼等が活躍する

受け皿ともなります。

そして、町の魅力を上げるのは他ならぬ我々市民の役割と申せます。おうみ未来塾で学んだ2年間に得られた知識・経験、更に各地域の先進事例を元に、及ばずながら近江八幡の活性化のため、まちづくりプロデューサーとして、その一翼を担ってゆく覚悟です。

市民参加による八幡山の  
修景活動の取り組み

《次世代に美しい里山景観と  
その保全の仕組みを残す為》

昔、湖上交易で賑わった八幡堀



ヨシ原の広がる内湖・西の湖



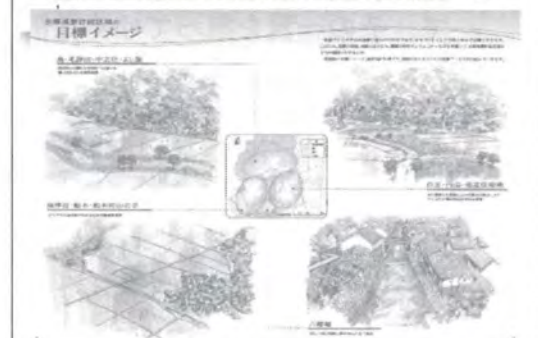
近江商人屋敷の連なる新町通り



町中に点在するヴォーリス建築



国の『重要文化的景観』指定第一号



晩秋の八幡山（豊臣秀次居城跡）



荒廃が進む麓の竹林



侵略した竹林の為枯死した大木



ツタに覆われて枯死寸前の紅葉



近江八幡市民活動

### 『八幡山の景観を良くする会』

を平成17年3月に立ち上げ

#### ◆会のミッション

1. 美しい里山景観の再生と、その保全の仕組みを次世代に伝え残す
2. 市民が親しみ、誇れる山を目指す
3. 子供達が野外遊びを楽しめる明るく安全な里山を創る

### 会の活動紹介

- 第一回試行作業 4月1日 4人でSTART
- 毎月第2水曜・第4月曜の月2回ペースで **20回作業実施。作業参加者延べ340人**
- 最近では20人～30人の作業者が参加
- 作業者は大半が市内在住の定年退職者  
一部大阪や近隣市町村からの応援もあり

作業打ち合わせの朝会風景



現場での作業風景  
太い竹ばかりで切るのも一苦労



枯れ竹の廃材の山(仮置き)



美しくなった竹林



クヌギ林の整備作業



昼は豚汁なべを皆で楽しむ



午後はみんなで竹細工に挑戦



11/20 市の環境フェスティバルに  
竹細工品を出展販売



### 会のモットーと役割

- 誰でも参加し易い**OPEN**な組織運営
- 共に汗を流すことで充実感・達成感を味わえ、新しい仲間づくりが出来る場
- 我々高齢者自身の社会的再資源化
- 団塊世代の退職後の地域活動の受け皿
- 創造的に楽しくやることが長続きの妙薬
- 計画的植樹で山の景観を良くしていく

### 会の運営方法

- 会則は作成済み。但し会費はなし
- 予算や作業計画は幹事会で決定
- 地元一般企業からの寄付を募る
- 行政や支援団体からの助成金
- 今後一般市民への普遍性を高めるため、誕生日や記念植樹などを公募してゆく

### 運営資金並びに植樹計画

#### □ 助成金・寄付金

|             |      |            |
|-------------|------|------------|
| 近江八幡市       | 30万円 | (まちづくり支援金) |
| コムケアセンター    | 10万円 | (市民活動助成金)  |
| 地元一般企業 (寄付) | 20万円 | (活動趣旨に賛同)  |

↓  
チェンソー・鋸・鉋・鎌・ヘルメット・草刈機 & 植樹木購入費用充当

#### □ 植樹計画

3月 8日 八幡小学校・近江兄弟学園 計5クラス  
卒業記念植樹 ⇒ 八景会から桜の成木5本提供

3月26日 緑の少年団総会記念植樹 桜・梅の成木4本

八幡小学校 平成18年卒業記念植樹





**近江里山歩きの会(八景会メンバー)**  
**八幡山縦走路～里山の峰歩きルートの新設**

- 歴史を感じる八幡市内のまち歩きと、里山歩きのジョイントは都会の人達には新たな魅力付けになる
- コンパクトに纏まった、従来型の観光地とは別の水と緑にふれあう自然景観の魅力
- 日牟礼八幡宮～八幡山頂上～峰伝い～百百神社～渡会橋～奥津島里山ルート～長命寺から市内に戻る
- 京阪神・名古屋・東京などに、積極的にPRしてゆく(狙いは単なる観光客だけでなく永住移住者の確保)



**おわりに**

**超高齢社会と人口減少 ⇒ 中小自治体の財政悪化**

《これを防止するには》

**人口の自然減少を食い止め、逆流入させる政策が必要**

まちの魅力度UPが課題(まちのブランド力向上)

↓

**住み心地が良く暮らしやすい事・生き甲斐感を感じられる事**

↓

従来の行政主導から市民自らの活発な活動

**まちづくりプロデューサーとしてその一翼を担う**

**おうみ未来塾の入塾動機とその反省**

- 会社というコミュニティから離れ、全く地縁の無い土地での新たな仲間づくり、新しい自分の居場所を探す為のヒントを見つける事。更に中心市街地のさびれをなんとかしたい
- 長浜～彦根～五箇荘～安土～近江八幡の観光ルートで、東京や関西方面から観光客を呼び寄せる方策を考える
- 長浜・伊吹・蒲生考現倶楽部・愛東町など、塾のフィールドワークで先進地のまちづくりプロデューサーの活躍ぶりが大変参考になった
- 気づいた事・・・一人ではやれる事は限られる⇒大勢でやれば相当の仕事が出来る事が分った《求めよ、さらば与えられん》

## 卒塾後の活動報告

|       |                         |
|-------|-------------------------|
| グループ名 | 美しい里山の創出を目指すチーム<br>村西耕爾 |
| テーマ名  | 市民参加による八幡山の修景活動の取り組み    |

- 本レポートは、主におうみ未来塾の卒塾後の活動状況(『八幡山の景観を良くする会』の活動)を中心に作成しました。  
一部活動開始時からの沿革を記載した記事もあります。

### 成果・反省と課題

#### I. 活動の成果

- ① 活動内容
- ② 広範な市民活動の広がり・連携
- ③ 行政との関係強化
- ④ 専門家に指導を受ける仕組みが出来た

#### II. 活動資金

#### III. 反省と今後の課題

#### IV. おわりに

## I. 成果

### ① 活動内容・・・別紙 八景会たより 参照

平成17年4月の活動開始以来の作業内容

#### イ) 定例作業

□竹林整備

合計14回 延べ339人

□コナラ林整備

合計10回 延べ186人

ロ) 各種オプション作業・イベント 合計10回 延べ136人

(親子筍ほり会・西の丸ベンチ、竹柵設置ほか)

合計

42回 延べ792人



コナラ林の間伐・整備

侵略・荒廃竹林の整備



いろいろな催しで、市民との交流を持ちました



親子タケノコ堀大会(4月)

小学校卒業記念植樹会(3月)



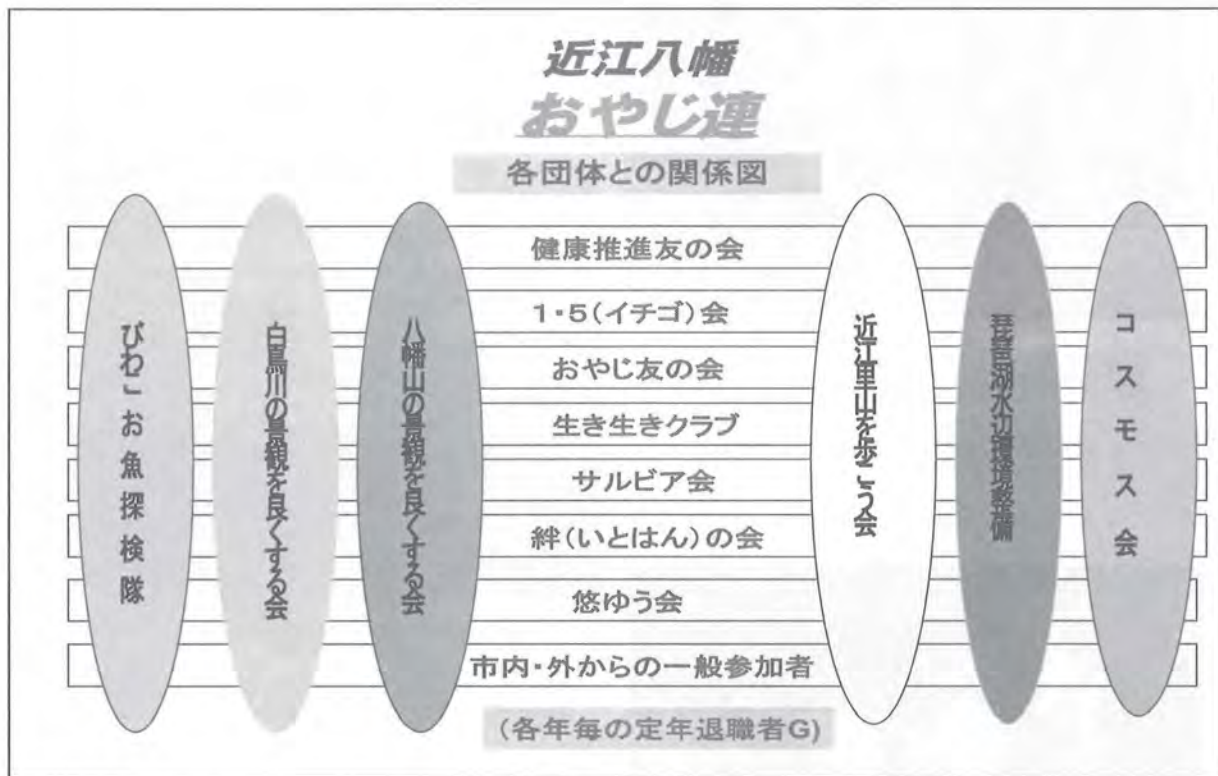
八幡堀祭りに竹行灯設置(9月)

環境フェスティバルに竹製品出展(11月)



② 広範な市民活動の広がり・連携

- ・これから迎える団塊世代の活動の場の提供
- ・地域住民の自主的活動で、環境系ボランティア組織が次々に誕生してきた  
当会の活動はそのさきがけとなり、各グループを有機的に結び付けている



③ 行政との連携強化・協働のまちづくりに参画

(八景会活動を主宰する中から派生)

- 滋賀県琵琶湖環境部 林務緑政課  
近江みどり文化を考える会 委員
- 近江八幡市建設部 都市・風景づくり課  
近江八幡市伝統的風景計画策定委員

④ 専門家に指導を受ける仕組みが出来た

京都府立大学 深町助教授

農水省の外郭団体の森林総合研究所 奥主任研究員

どちらも里山景観に関する権威者で、自らも志賀町に里山を所有し植物生態などの研究をしている。また、人と里山の関わり方などの調査研究もしており、当会の顧問的存在として、今後継続的にご指導を頂く事になった。

平成18年9月に近江八幡市立図書館で、『八幡山の景観とその植生の魅力』という演題で講演を頂き、当会員ほか一般市民が60名強参加していただき、八幡山に対する市民の関心の高さが分かった。



## II. 資金計画

初年度 (H17/4～H18/3) 60万円

近江八幡市・コムケアセンター・企業からの寄付金

主に、チェーンソー・草刈機・ヘルメット・鋸・鎌・鉋代として使用

二年度 (H18/4～H19/3) 50万円

滋賀県みんなの森づくり事業・近江八幡ライオンズクラブ

主に、植樹代・講師謝礼・ボランティア保険料として使用

## III. 反省と今後の課題

- ・ 作業日の設定を第2水曜日と第4月曜日に行っている為、殆どが会員主体の作業になった。今後は日曜・祝祭日にも開催し一般市民の参加の機会を増やしたい
- ・ 親子参加の出来る企画(親子筍掘会や竹細工体験教室、野外あそび教室など)
- ・ 小学校に呼びかけして、開通した八幡山の縦走路ハイキングを定着させたい
- ・ 作業領域が市の所有地については、ほぼやり終わったので、今後は私有地にもその作業領域を広げる必要がある(こちらの方が侵略竹林が広域に亘る)、現在近江八幡市にその調整を依頼中。

### ～おわりに～

おうみ未来塾を卒塾して今春で満一年、更に当活動を開始して満二年になるが、未来塾への入塾動機となった《まちづくり活動》(地域の活性化)を目指して他の市民活動団体や行政・企業とも連携を深めて、より広範な社会性を持てるような活動にすべくチャレンジしてゆきたい。

## グループ研究活動① 市民参加による八幡山の修景活動の取り組み

卒業後の取り組みについて

# 八景たより

(平成18年12月)



今年一年を振り返って、一般作業以外の主要行事を挙げてみました。思い出しますね・・・。

- ・ 1月 6日 『近江里山を歩こう会』と『八景会』合同の日牟礼八幡宮での安全祈願
- ・ 1月11日 平成18年 新年の初作業・・・冬晴れの中での竹林整備
- ・ 2月 8日 作業後中江邸でクヌギのホダ木に椎茸菌駒打ち作業(1000駒)
- ・ 2月17日 幹事会
- ・ 2月25日 滋賀県立長寿社会福祉センターでシニア活動Gパネル展示
- ・ 3月 8日 通常作業後 午後から八幡小学校卒業記念植樹実施(河津桜4本)
- ・ 3月18日 近江兄弟社学園 卒業記念植樹実施(河津桜1本)
- ・ 3月31日 H17年度末 一年で必要機材一式を揃え、収支ほぼ均衡で決算す
- ・ 4月12日 コナラ林の整備後、公園でお花見会 23名参加
- ・ 4月24日 午前中竹林整備 午後から皆で笥堀 椎茸のホダ木を竹林に定置す
- ・ 4月27日 京都府立大学人間環境学部 深町助教授初来幡打ち合わせ
- ・ 4月29日 親子タケノコ堀大会(市の広報で募集) 大好評
- ・ 5月22日 通常作業の他、別働隊頂上の西の丸台地で、観光客用ベンチ製作
- ・ 6月 7日 TVチャンピオン二名氏の取材の為オプション作業実施(TV東京)
- ・ 7月17日 二名氏提唱のびわこ水辺環境整備に雷雨の中、応援(長命寺湖畔)
- ・ 7月22日 滋賀県みんなの森作り事業活動助成金プレゼン実施。20万円内定
- ・ 7月26日 深町助教授&奥森林センター研究員を八幡山縦走路案内。生態観察
- ・ 8月 3日 八幡山ロープウエー支配人・名鉄観光さんを八幡山縦走路案内。
- ・ 8月 9日 8時~10:30通常作業。 午後からひまわり館で社協主催の『夏の福祉学級』応援。二名氏の火興し実演他竹細工教室。大好評
- ・ 9月 8日 オプション作業日 頂上西の丸台地で虎ロープ⇒竹に交換、ベンチ設置
- ・ 9月13日 雨天の為通常作業中止し、管理棟前で竹行灯300本製作する。
- ・ 9月16日~17日 八幡堀祭りに協賛し、資料館~京街道~願成就寺まで上記竹行灯設置
- ・ 9月27日 『八幡山周辺の里山景観とその植生の魅力』講演会開催 61名参加
- ・ 10月22日 白王地区権座の草刈ボランティアに参加(いとはんの会中心に)
- ・ 10月25日 オプション作業日 頂上北の丸台地で虎ロープ⇒竹に交換する
- ・ 11月 4日 守山の市民活動屋台村に景観隊と共同出展。 10日まで
- ・ 11月 5日 初めての一般ボランティア公募。午前中作業し、午後は竹細工教室
- ・ 11月 8日 午前中竹林整備作業。午後からは竹細工。別班は北の庄ののろし台整備
- ・ 11月11日 環境フェスティバルに出展し、小雨の中竹細工作品を販売。22750円
- ・ 11月27日 午前中コナラ林の整備後、昼は紅葉狩の酒宴を張る。
- ・ 12月 5日 五個荘のきぬがさ山へ、椎茸のホダ木取り。約50本の良木を確保する。

■ 平成17年4月の発足以来、オプション作業を除いて42回、延べ792人の参加。

グループ研究活動① 市民参加による八幡山の修景活動の取り組み

卒業後の取り組みについて

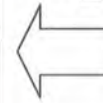
これから行事

◆ 定例作業(9月からは通常時間帯 9時～15時に戻ります)

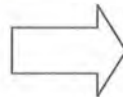


第2水曜日  
(月の第二回目の水曜日)

コナラ林の整備作業



第4月曜日(月の第四回目の月曜日)  
竹林の整備作業



◆ 特別行事のご案内

- ・ 9月23日(土曜日・秋分の日) 13:00～16:00  
社会福祉協議会の『平成18年度ウエルカム講座』  
会場 ひまわり館 活動紹介のパネル展示
- ・ 9月27日(木曜日) 13:30～16:00頃迄  
八景会主催 『里山について学ぼう』講演会  
会場 市立図書館 於  
講師 深町助教授 京都府立大学  
奥研究員(農水省森林総合研究所)
- ・ 11月11日(土曜日) 9:00～17:00  
市主催 『環境フェスティバル・農業祭』  
会場 男女共同参画センター
- ・ 11月 5日(日曜日)  
『びわこ水源の森づくり月間』に併せ、竹林整備作業一般公募

□ 既報の通り、この度滋賀県琵琶湖環境部林務緑政課の『みんなの森作り活動支援事業』に応募申請し、活動資金として20万円の資金援助の内定を頂きました。今後の活動のために、有効に活用したいと思っております。

# 地域の防災防犯 活動支援

こ み ゆ すけ  
Commuの介 グループ

メンバー

湧口正男、 吉野 和、 大塚 了、  
西村忠幸、 小寺 寛、 原田友美

自治会傘下での「自主防災」「地域安全」への取り組みについては、まだ組織化が進まない地域があり、既存組織も新たな観点からのチェックが必要とされています。また、自治会未加入問題もあり、進展していない現状があります。

こうしたことから、行政と住民との中間にあって、自治会でのまちづくり活動を支援する「地域の防災防犯活動支援」をテーマに、モデル地区で地域まちづくり体験を進めるかたわら、これを基にその展開について草津・長浜・守山3市の調査を進め、取り組みました。

実習活動の報告

## 地域の防災防犯活動支援 (中間支援)

平成18年3月11日(土)  
おのみ未来塾6期生  
Commuの介グループ

11:45:10 1

## 目次

|             |              |
|-------------|--------------|
| グループの名前     | グループ活動の仕組と動向 |
| メンバーと担当概要   | Commuの介会議    |
| 地域の防災防犯活動支援 | 調査・行事参加など    |
| 目 的         | 講演・講座など受講    |
| 推進上の課題      | モデル地区の報告     |
| 活動の方法       | 活動の締め        |
| 当面の行動計画     |              |

11:50:39 2

わかりやすく

## グループの名前

名称 **Commuの介**

意味 地域Community を  
介す ← 助ける  
仲立ちする

11:45:01 2

推進目標設定

## メンバーと担当概要

湧口正男:長浜市の現状調査、中間支援の仕掛けと問題点、特別命題

吉野 和:社会一般の現状調査、市民社会の動向と構成上の問題点

大塚 了:守山市の現状調査、中間支援の仕掛けと問題点、特別命題

西村忠幸:製造と流通における動向調査、特別命題

小寺 實:草津市の現状調査、中間支援の仕掛けと問題点、特別命題

原田友美:幼児環境における現状調査、特別命題

11:45:19 3

目的、狙い

## 地域の防災防犯活動支援

地域に設置される自主防災と防犯組織の

- ・立上期の手引き
- ・定着期の充実
- ・既存組織の点検 など 手伝いを行う。

つまり、行政と地域住民との中間に位置し、当該支援を行う。

↓

### 中間支援

11:45:27 4

支援構造を次世代に

## 目 的

地域の※現状の課題に鑑みつつ、地域の防災防犯活動の支援を行う。

「ご近所の底力」的ではあるが、現実に見合った合理性を求め、熱意ある集団を立上げの一助とする。

こうした活動などを通じて、地域に根ざした形式と方策とを編出して、次世代に引継げるように考案し(仕組み)推進し定着を図っていくものとする。

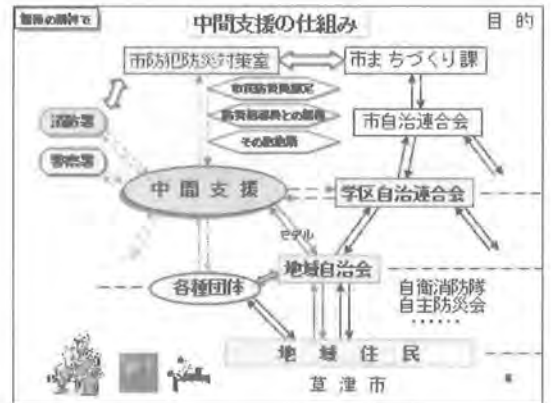
11:45:42 5

**中間支援の必要性** 目的

**※現状の課題**

- ①防災・防犯は地縁的な取扱事項とされることが多い。
- ②担当は1年任期の当番制が多い。
- ③防災・防犯関連事項は単年度処置で切り切らず、また地道な継続性が望まれる。
- ④行政の防災・防犯業務は消防署や自治連合会経由でのアクセスが主で、住民に直結していないことが多い。
- ⑤過去の行政施策はハード面充実が意図されることが多く、ソフト面は対応が遅れ気味である。

11-15-34 8



**対応と協働で**

**推進上の課題**

- ①専門知識と資格・認定の取得
- ②地域理解と対応
- ③安全への制約(権限)
- ④既存団体とのテリトリー調整、協働

16-11-16 9

**対応と努力で**

**活動の方法**

地域情報の収集ネットワークを持ち、問題対応も地域と行政との連絡・調整を図りつつ、対策は地域組織連携で素早く実施できるもの

- ①地域への啓発・啓蒙＝自治会支援、学区自治連合会支援を目指す(講習・訓練・確認・ハトロール)
- ②防災・防犯施設の管理・監視＝学区レベルの活動支援(現場講習・確認チェック・操作)
- ③防災指導員、消防署、そして警察署との協働を図る

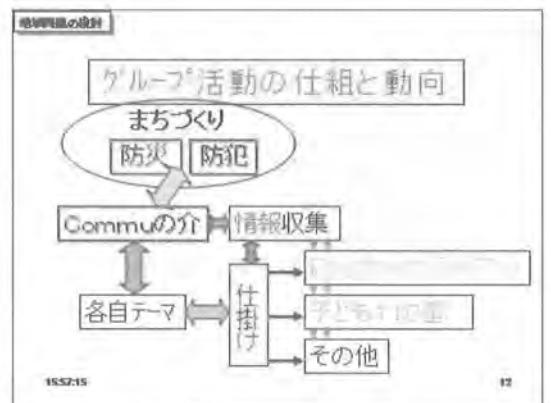
16-12-29 10

**多岐に亘る**

**当面の行動計画**

専門家の話を聞く場づくり(事務局と相談)  
 講座・行事・イベント参加  
 役所・施設等の調査活動  
 モデル地区仕掛けと情報交換・交流交歓  
 流通における子供110番の仕掛けと交流  
 災害弱者の存在位置情報とセキュリティ  
 高層住宅住人の「向う三軒両隣」協働

16-12-50 11



活動基地、情報交換

### Commuの介会議 1

- 6月 7日(木)運営委員懇談会の準備
- 7月 3日(日)災害弱者など打合せ、  
八王子ワンワンパトロール紹介
- 7月 7日(木)調査資料の照合
- 7月22日(金)当面の行動計画(情報収集)
- 10月14日(金)収集情報の整理(中間纏め)

16:13:42 13

調査と纏め

### Commuの介会議 2

- 11月18日(金)定例会議(調査予定検討)
- 12月 9日(金)定例会議(モデル地区照合)
- 12月22日(木)定例会議(活動纏めの予定)
- 1月12日(木)定例会議(活動資料収集編集)
- 2月15日(水)定例会議(6期生発表準備)

16:13:57 14

現状把握、参加

### 調査・行事参加など

- 6月 5日(日)新潟県被災地訪問調査
- 7月 8日(金)滋賀県庁訪問調査
- 8月28日(日)草津市総合防災訓練参加  
守山市地震災害総合訓練参加
- 9月14日(水)神戸・人と防災未来センター行
- 9月21日(水)長浜市自治防災課訪問調査
- 10月31日(月)あゆみ保育園訪問調査
- 11月21日(月)守山市訪問調査

16:14:14 15

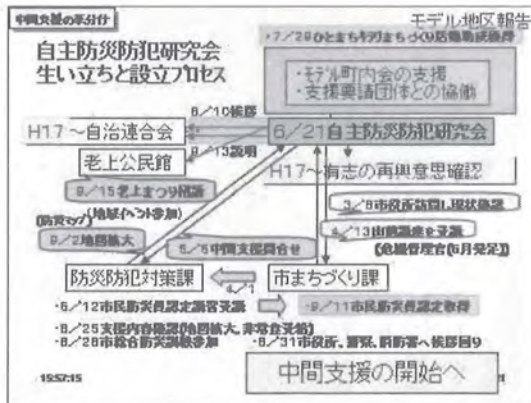
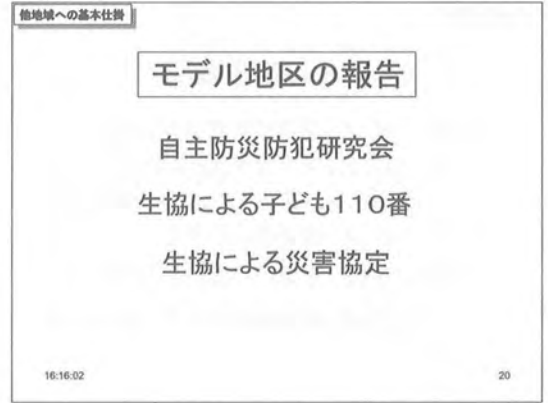


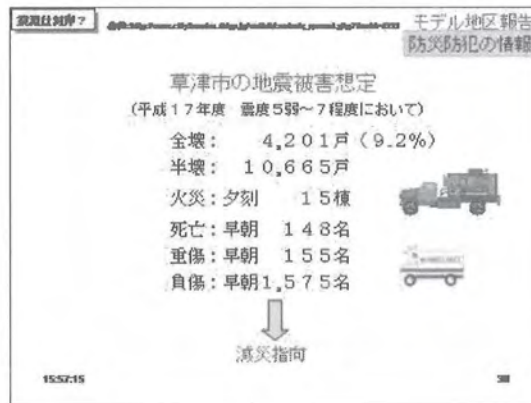
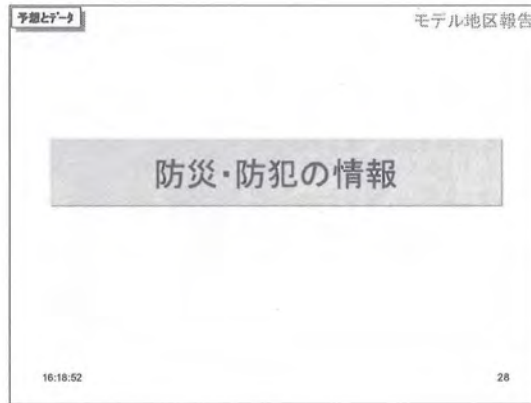
基礎情報収集

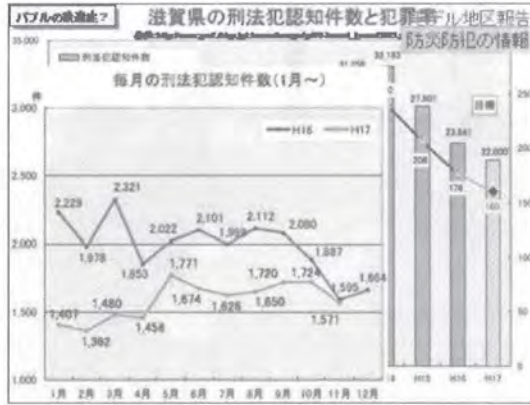
### 講演・講座など受講

- 9月 3日(土)防災環境講座(地震災害)
- 9月 6日(火)活断層と地震の歴史
- 9月10日(土)防災環境講座(地震対応)
- 9月17日(土)防災環境講座(トラウマ対応)
- 9月24日(土)防災環境講座(ライフライン)
- 10月 1日(土)防災環境講座(都市機能)
- 10月 8日(土)防災環境講座(台風災害)
- 10月15日(土)防災環境講座(文化遺産)
- 10月22日(土)防災環境講座(自然災害増)

16:15:18 16







**表紙を覗く** 滋賀県警察本部 モデル地区報告  
防災防犯の情報

平成17年 市町別の刑法犯認知件数累計(11月末時点)

| 市町  | H17<br>H16<br>増減 |       | 殺人、強盗、暴走、窃盗<br>強盗犯 |    | 窃盗、強盗、暴走、窃盗<br>強盗犯 |    | 殺人、暴走、窃盗<br>強盗犯 |    |       |     |       |     |       |     |
|-----|------------------|-------|--------------------|----|--------------------|----|-----------------|----|-------|-----|-------|-----|-------|-----|
|     | 認知               | 前年    | 認知                 | 前年 | 認知                 | 前年 | 認知              | 前年 |       |     |       |     |       |     |
| 草津市 | 2,029            | 1,111 | 2                  | 1  | 54                 | 0  | 29              | 3  | 1,489 | 757 | 1,332 | 82  |       |     |
| 津市  | 2,424            | 0     | 7                  | 0  | 1                  | 28 | 0               | 11 | 28    | 1   | 1,887 | 186 | 3,292 | 22  |
| 合計  | -80              | 0     | 1                  | 0  | 0                  | 15 | 0               | 1  | 10    | 2   | -401  | -18 | -315  | -10 |

| 市町  | 窃盗、強盗、暴走、窃盗<br>強盗犯 |     | 窃盗、強盗、暴走、窃盗<br>強盗犯 |    | 殺人、暴走、窃盗<br>強盗犯 |    |
|-----|--------------------|-----|--------------------|----|-----------------|----|
|     | 認知                 | 前年  | 認知                 | 前年 | 認知              | 前年 |
| 草津市 | 24                 | 86  | 2                  | 0  | 0               | 0  |
| 津市  | 91                 | 80  | 4                  | 4  | 1               | 0  |
| 合計  | -17                | -14 | -2                 | 0  | -1              | 0  |

1557-15 32

**特に草津市周辺** 滋賀県警察本部 モデル地区報告  
防災防犯の情報

草津市に於ける犯罪の現状

平成14年、草津市は1万人当たりの件数で大府よりも多く、全国一安全ではなかった。(349件)

犯罪総数は4,100件、内窃盗(自転車泥棒など)が3,403件、詐欺60件と多い。

痴漢の類も跡を絶たない。

【単独本部資料提供】

1557-15 33

**データを知る** 滋賀県警察本部 モデル地区報告  
防災防犯の情報

平成17年 市町別の刑法犯認知件数累計(11月末時点)

| 市町  | H17<br>H16<br>増減 |       | 殺人、強盗、暴走、窃盗<br>強盗犯 |    | 窃盗、強盗、暴走、窃盗<br>強盗犯 |    | 殺人、暴走、窃盗<br>強盗犯 |     |       |      |     |      |      |
|-----|------------------|-------|--------------------|----|--------------------|----|-----------------|-----|-------|------|-----|------|------|
|     | 認知               | 前年    | 認知                 | 前年 | 認知                 | 前年 | 認知              | 前年  |       |      |     |      |      |
| 草津市 | 2,114            | 1,111 | 0                  | 0  | 13                 | 0  | 4               | 0   | 1,977 | 78   | 479 | 171  |      |
| 津市  | 1,165            | 0     | 0                  | 0  | 21                 | 0  | 11              | 11  | 4     | 342  | 179 | 897  | 278  |
| 合計  | -80              | 0     | 0                  | 0  | -8                 | 0  | -7              | -11 | -2    | -385 | -11 | -388 | -101 |

| 市町  | 窃盗、強盗、暴走、窃盗<br>強盗犯 |     | 窃盗、強盗、暴走、窃盗<br>強盗犯 |    | 殺人、暴走、窃盗<br>強盗犯 |    |
|-----|--------------------|-----|--------------------|----|-----------------|----|
|     | 認知                 | 前年  | 認知                 | 前年 | 認知              | 前年 |
| 草津市 | 21                 | 28  | 0                  | 0  | 0               | 0  |
| 津市  | 44                 | 39  | 3                  | 2  | 0               | 0  |
| 合計  | -3                 | -11 | 3                  | 0  | 0               | 0  |

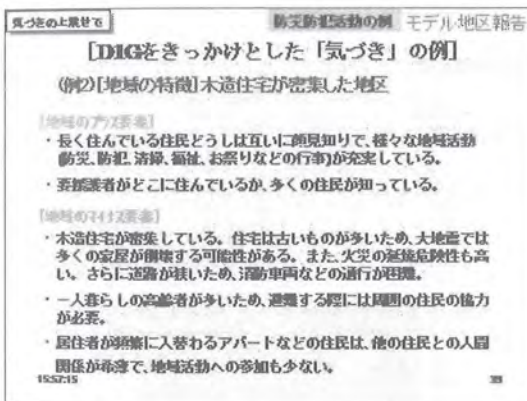
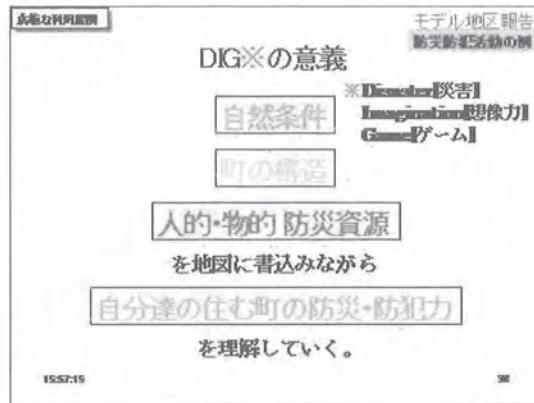
1557-15 34

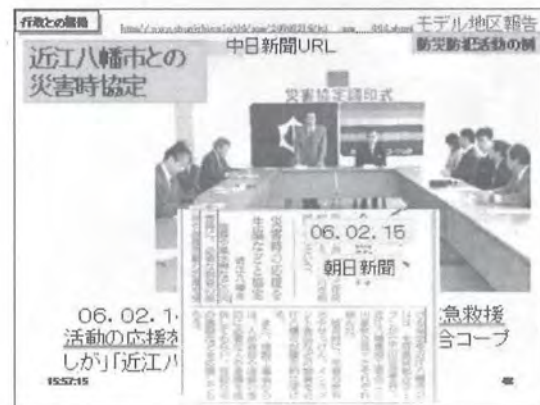
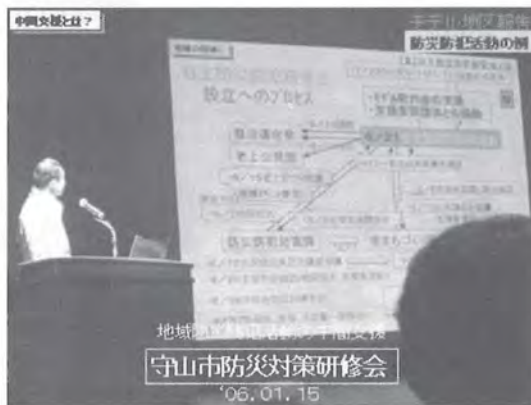
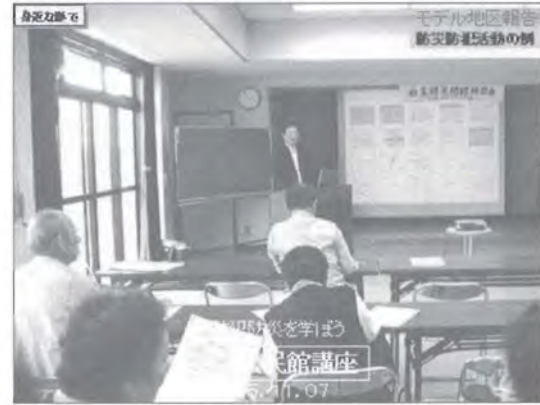
**リニューアル** モデル地区報告

防災・防犯活動の例

1621-34 35







住持への挨拶 活動の締め

活動の締め 1

- ・断層動が近く、刑法犯の多い県と市の動向
- ・まちづくりにタイムリーな課題であった
- ・メンバーは多種立場の集りで広く検討出来た
- ・調査も学校から現場まで多種にふれられた
- ・モデル活動との協働が出来て実感があった
- ・活動の足跡を記録に止めたい

15.5.15 48

各市の準備に基づく 活動の締め

活動の締め 2

三市の動向

草津市：危機管理官、防犯防災対策室を置いて、市民防災員育成、防災防犯施設などを講じている。

守山市：地縁組織率が高く、自治会におけるまちづくり活動と連携しながら、防災・防犯対策を推進している。

長浜市：地縁組織率が高く、各種支援の中で様々なイベントを基に意識や行動の向上を図っている。

15.5.15 58

記録に残す 活動の締め

活動の締め 3

活動概要 =メンバー紹介、狙い、計画、所感

活動記録 =活動経過、報告、課題

活動成果報告 =自主防災防犯研究会、110番生協車

活動調査報告 =長岡市・草津市・長浜市・守山市役所、あゆみ保育園、人と未来防災センター、講座(防災環境を考える)

収集資料概要 =資料概要、パワーポイントCD

15.5.15 51

地道な継続

終

地域の防災防犯活動支援  
(中間支援)

15.5.15 52

☆☆ Commuの介 事例報告 ☆☆

Commuの介 西村忠幸

はじめに

生活協同組合コープしがでは、昨年度に五個荘町と子ども110番車両の認可を受けて、地域の子どもを守る取組が展開されました。地域の組合員さんからの要望を受けて、行政との協議を経て実現しました。

Commuの介のメンバーになり、自分の勤務する事業所でも子ども110番車両を地域に走らせたいという想いがつり、地域の組合員さんからの要望も後押しとなり、小寺さんとも相談し、近江八幡市市役所の総務課へ足を運んだ事から始まりました。

経過（2005年）

- 6月14日 近江八幡市市役所 総務部総務課へ  
子ども110番車両について、コープしが近江八幡センターとして取組をしたい旨相談する
- 7月 近江八幡市市役所 教育委員会 生涯学習課  
具体的ないようについての協議  
近江八幡市の事例（株）近江鉄道 の説明を受ける
- 8月 4日 近江八幡市市役所 教育委員会 生涯学習課  
設置要綱 緊急時対応マニュアル についての協議  
助けを求めて来た時の対処について
- 8月11日 近江八幡市市役所 教育委員会 教育長より  
設置依頼文章が届く
- 8月18日 近江八幡市市役所 教育委員会 生涯学習課  
設置車両計画書の提出  
※ ここで緊急事態発生  
子ども110番車両ステッカー 作成について  
行政は予算がないため、作成できない 生協で用意出来ないか
- 8月 近江八幡センター エリア協議会 〈生協内 会議〉  
予算執行についての緊急提案 執行確認を得て経費執行起案
- 8月 起案決裁後 子ども110番車両ステッカー 発注  
@¥1,900×30枚 8月末納品
- 9月15日 近江八幡市内 子ども110番車両の運行開始 プレスリリース

所感

おうみ未来塾6期生  
Commuの介（地域の防災防犯）に関わって、背中を押して貰った成果だと感じています。締結する事が目的ではなく、地域の子どもたちを地域に関わる大人が守る事が大きな使命だと痛感しています。また、前例はありましたが、行政ごとに考え方が違い、前例通りに進まなく苦しみました。取組に理解をして頂き、実施を目前に予算関係で足踏みしたことも良い教訓となりました。

2005年9月17日 朝日新聞



☆☆ Commuの介 事例報告 ☆☆

近江八幡市が災害時協定

コープしが、近江八幡建設工業会と

Commu の介 西村



近江八幡市は14日、災害時に生活物資調達や応急救援活動の応援を依頼する協定を生活協同組合コープしがと近江八幡建設工業会の2団体と結んだ。(本谷 一成)

2団体と災害時の協定を結んだ調印式＝近江八幡市役所で

同市では、市防災計画に基づいて災害予防と万が一の災害時に迅速で的確な応急復旧活動が行える体制づくりを進めている。市役

所で行われた調印式には、コープしがの中出浩理事長や松本明子近江八幡エリア担当理事、同工業会の小川敏秋会長らが出席。それぞれ川端五兵衛市長と協定書に署名を交わし、調印した。コープしがは災害で流通に支障が生じた場合に市内で必要な生活物資を調達し、同工業会は道路や河川などの応急復旧や応急仮設住宅の建設、被災住宅の修理などで協力するという。川端市長は「大規模災害時の相互協力体制を整えていただけることは大変心強い。調印を契機に皆さん方と連携を深めながら安心・安全なまちづくりに努めたい」などと話した。

[http://www.chunichi.co.jp/00/sga/20060215/lcl\\_sga\\_003.shtml](http://www.chunichi.co.jp/00/sga/20060215/lcl_sga_003.shtml) (06.02.15 中日新聞)

(06.02.15 朝日新聞)

# ハート 全面移行

動経費や書類代など年間約5億1500万円を削減できるとのこと。

## 災害時の応援を生協などと協定

近江八幡市

地震や風水害などの災害時に、必要な物資の提供や救援活動の応援を受ける。

ける協定を近江八幡市が14日、生活協同組合コープしが(中出浩理事長)、近江八幡建設工業会(小川敏秋会長)とそれぞれ結んだ。

被災時に、生協の飲料水やせっけん、インスタント食品などの物資を近江八幡市が優先的に受ける。

また、建設工業会からは、人命救助や道路の復旧に必要な人や重機を提供してもらい、仮設住宅の建設などを応援してもらう。

☆☆ Commuの介 事例報告 ☆☆

6期生 Commuの介 西村忠幸

卒塾後の活動について報告いたします。

卒塾時の活動課題であった東近江市との子ども110番車両の取組について、人事異動があり直接に関わる立場から、間接的に関わる立場になりました。行政との協議を引き継ぎ締結することが出来ました。

〔コープしがホームページ トピックスより〕

>06/04/14

東近江市と『子ども110番』の覚書を交わしました

「子どもたちの安全、見守ります!」。

2006年4月4日、コープしがと東近江市との間で子どもの安全を守る覚書が交わされました。

東近江市には、近江八幡センターと愛知川センターから商品をお届けしています。

両センターの車両には『子ども110番のくるま』と書かれたマグネットシートが貼られました。センターの職員は市内の配送業務中などに子どもたちの安全な生活や、健全育成にふさわしくない状況を発見した場合には、速やかに警察に通報することになっています。



左 コープしが中出理事長・右 東近江市中村市長



〔左から西村・近江八幡センター栗田センター長・蒲生支部河村リーダー・中出理事長・愛知川センター東近江支部西岡リーダー・井上センター長・八日市支部外池リーダー〕

最後に・・・

地域の防災防犯活動について、問題意識と何か出来ることはないか、いろいろ考える機会を頂いたと振り返っています。なかなか踏み出せなかった一步をCommuの介メンバーに後押しして頂きいくつかの実践事例が出来たと感謝しています。

また、コープしがから7期生(2名)や8期生(2名)とおうみ未来塾の塾生として、つながっていることはとても大切だと感じています。

貴重な経験と問題を共有する仲間メンバーに巡り会えたことは大きな財となりました。本当にありがとうございました。そして、よろしく願いいたします。

おうみ未来塾6期生  
活動記録集 原稿

小 寺 實

グループ活動資料  
その後の動向 (Commuの介グループ)

1. 勇口正男

(電話インタビュー)

- (1) いい勉強をしました。活動への備え・気構えとして今後に役立てていけます。
- (2) 現在は、引き続き、主として「まちづくり役場」で活動中です。  
ここではまちづくりに関する情報の収集をし、仕組みを明確にしていき、出資会社を募り、組織・法人を立ち上げることを狙いとしています。そして「まちづくり役場」への利益還元循環を期しています。
- (3) その他、幾つかの地域の公的役職を担いつつ、各種団体ほかの地域リーダーの養成に努めています。

2. 小寺 實

入塾応募の抱負「自主防災防犯活動の中間支援」での研究チーム「Commuの介」が成立し、その試行組織「自主防災防犯研究会」を卒塾後も続けています。ここでは、おうみ未来塾グループで初めての在塾中公的資金助成獲得のもと、行政の施策等を住民に解説しつつ啓発啓蒙と活動支援などでの回数を重ねています。

また、当時、塾外組織で並行的に進めていた「小学校の(総合)学習支援」についても「琵琶湖の水環境」関連テーマで進めていて、公的資金助成獲得と共に更に展開を深めようとしています。(ウオーターステーション子供環境班)

そして、ことの大小を問わず「課題発見」「取組企画」「仲間づくり」を常なるモチベーションとして、いま「地域の情緒ある子供づくり支援」を次なるテーマとして「仕掛け」つつあります。(町内会レベル)

さて、Commuの介「自主防災防犯研究会」は内部充実を図ると共に、卒塾から現在までに草津市内外で出前講座8件(防災防犯)、イベント参加出展3件(参加型)を実施いたしました。助成金によるプロジェクターなど装置の駆使、防災・防犯グッズ業者との提携、そして役所の支援を得て、機関紙を発行しつつ人脈活用のもとで概ね好評裏に推移しています。

予約残も抱えつつ、次なる展開のために線香花火的ではなく、また狼少年的にはならない活動を地道に継続的に、組織拡充も含めて進めることが必要と考えています。

以下、主としてこの活動の動向を画面で紹介します。 (終)

(出前講座)







(イベント参加)





# ちょうめいじさんけいこどう 長命寺参詣古道

## 長命寺参詣古道グループ

### メンバー

川端悦子、 松井文子

街道は、昔より人と物が行き交うことで地域に経済、文化をもたらしたました。地域に残された跡を追うことで、風景の中にとけ込んだ往時の人々の信仰や生き方、生活の息づかいなどを知ることができます。いにしへの街道とその周辺の風景から、この地域にしかないものを見つけ、学び、伝えることと、それに取り組む仲間を増やすことも「地域プロデューサー」の役割ではないでしょうか。

古い街並みを残す近江八幡市街から、琵琶湖のほとりに開かれた観音霊場長命寺に至るまでの古道と近江八幡ゆかりの人々を結ぶ「参詣古道」を創る企画です。ヴォーリス来幡100年をきっかけに検証し、塾外の人たちとの連携により取り組むことができました。

わずかではありますが、まちづくり再生、風景条例に活かせる取り組みとなったように思います。

## 長命寺参詣古道

## はじめに

天下の回廊と呼ばれていた様に、近江の国は人の行き交う道が琵琶湖に沿って次の道や峠へと歩く人、湖上を舟で過ぎ去っていったり、歴史と共に残されたものも戦火の中に消え、人々の通った街道や古道もだんだんと現代の道から薄くなってきた。近江八幡の奥座敷として「近江八幡遊歩マップ」につづく、「遊歩、古道マップ」を作りたいと思った。この古道には、近江八幡名誉市民第1号のW. M. ヴォーリズの眠る恒春園もヴォーリズ記念病院も氏が愛した北之庄古道にあり、琵琶湖を日本の“へそ”と呼び、氏の呼び名にされたほど琵琶湖畔を好まれ、今年はヴォーリズ氏来幡100年になるので企画に入りたいと思った。部会で「長命寺古道」にヴォーリズ氏というイメージの合わない宗教論争があり、プロジェクトから離れた人もいたが、この北之庄古道にライトをあてる事により市の奥座敷の地形が浮かび感動も生まれてくる。

当日までの活動、当日の日程は別紙のとおり

## 北之庄古道

八幡の日牟礼神社の拝殿の横道が町の細い道を北之庄神社の角を曲がると「長命寺まで五十丁」の石碑が目を開く。島町までに参詣古道のおもかげがわずかに残る道が少し広がっていくと、竹林が視野をさえぎる山側にW. M. ヴォーリズ氏が眠る恒春園の階段が目に入る。献花であふれる斬新な扉を開くとステンドガラスの両横にヴォーリズ氏関係者の共同骨入れになっている。死まで私財を残さず他人の為に努力しそれで自分が高められてゆくお心が感じられた。桜並木の古道はヴォーリズ氏が社会貢献の手がかりだった病院経営のヴォーリズ記念病院の中を通る。この古道で行き倒れられた比叡山の修行僧遠藤観龍氏を助けられ、結核の介護に「おやすみ場」をつくられたのが近江サナトリウムの前身と言われている。

## W. M. ヴォーリズ氏のこと

校舎の存廃問題からW. M. ヴォーリズ氏のご存知の方が多いが、市内でも恒春園は知られていない。氏が近江八幡を“日本のへそ”と言って社会貢献された生涯を終え、今恒春園で眠られている。アメリカのカンザス州レブンワースで1880年に生まれ、少年時代をアリゾナの高原で過ごされ、コロラド大学で学びYMCAの運動で日本を選び、84歳で永眠されるまで近江八幡の住民で、その精神を開発し感化された人々は全国に亘っている。「メンソレータム」の傷薬の会社、YMCA、病院、学校、幼児教育、図書館の設立など。今、蔵書は市の図書館に寄贈され、有形、無形の資産や、市内の建築でも10数指になるが、市のポイント的な現存地になっている。終戦時にはGHQ司令官のマッカーサーと親交があり、天皇との会見にも立会い、天皇の「人間宣言」の起草にも関わられたと言われている。（近江蒲生野。記）

## 中野庄古道

北之庄古道から大島奥津島神社に立ち寄り大国主命、奥津島比売命と延喜式新名帳に名をとどめる。神社文書等、文化財の宝庫と言われている。今は湖周道路で北之庄と向かい側の方向に位置して、村のはずれから細い道が続く。中之庄の町名は古く鎌倉期からで、かつて漁村だったと言われるが、長命寺山の麓になる。下を通るのが今の古道だが、中腹それより上にと古道らしきものがある。修行僧がつけた道とか山裏の琵琶湖側から船便で人が通った道だと言われるが定かでない。町はずれから一列に足もとに気をつけながら進むと、落葉のじゅうたんに落ちた大きなどんぐりを踏むとパチンと音をたて、秋の木漏れ日が心にじんときる。タヌキにもイタチにも出会えた。この豊かな自然が1,000メートルくらい続いているが、途中で小石が積まれ鍋が乗せたまま点在している。石仏もある。その少し前に「すぐ長命寺」という石碑がある。参詣の人々はやっとここまで来れたと思ったであろうと推測される。伝説の「朝日の名号」大きな石が輝いて見えた。中主尊神社を通過して長命寺へ。

長命寺のこと

「江州いきや山長命寺」という。長寿、長命が得られるというので遠くからも、また西国観音霊場33箇所の中の31番札所であり、多くの重要文化財がある。開祖は聖徳太子と言われている。いきや山には磐座（いわくら）があり、長命寺の横には「太郎坊宮」もある。昔から磐座は「神なびている山」とも「光る山」ともいわれて畏れ、敬われていた。蒲生野の自然はすばらしく、幾度も聖徳太子が訪ねられた。

終章

戦国時代、安土の信長の時代、セミナリオがあり信長は世界へ目を向けていた。秀次は八幡山城を築城、八幡の街を造った。

秀次亡きあと佐々木家が衰退すると近江商人は全国に出向いて富を成した。

ヴォーリズはこの地を日本の「へそ」と自分の呼び名にもしていた。

これらを考えつなぐと交通の要所ばかりでなく、自然の力と共に時代から時代の活力が動いていた様に思える。次世代への可能性として地域資源マップを広め来訪者の増加を目指したい。

「長命寺参詣古道」のイベント開催のあと、2つのグループが同じコースを遊歩されたと、案内された職員から聞いている。



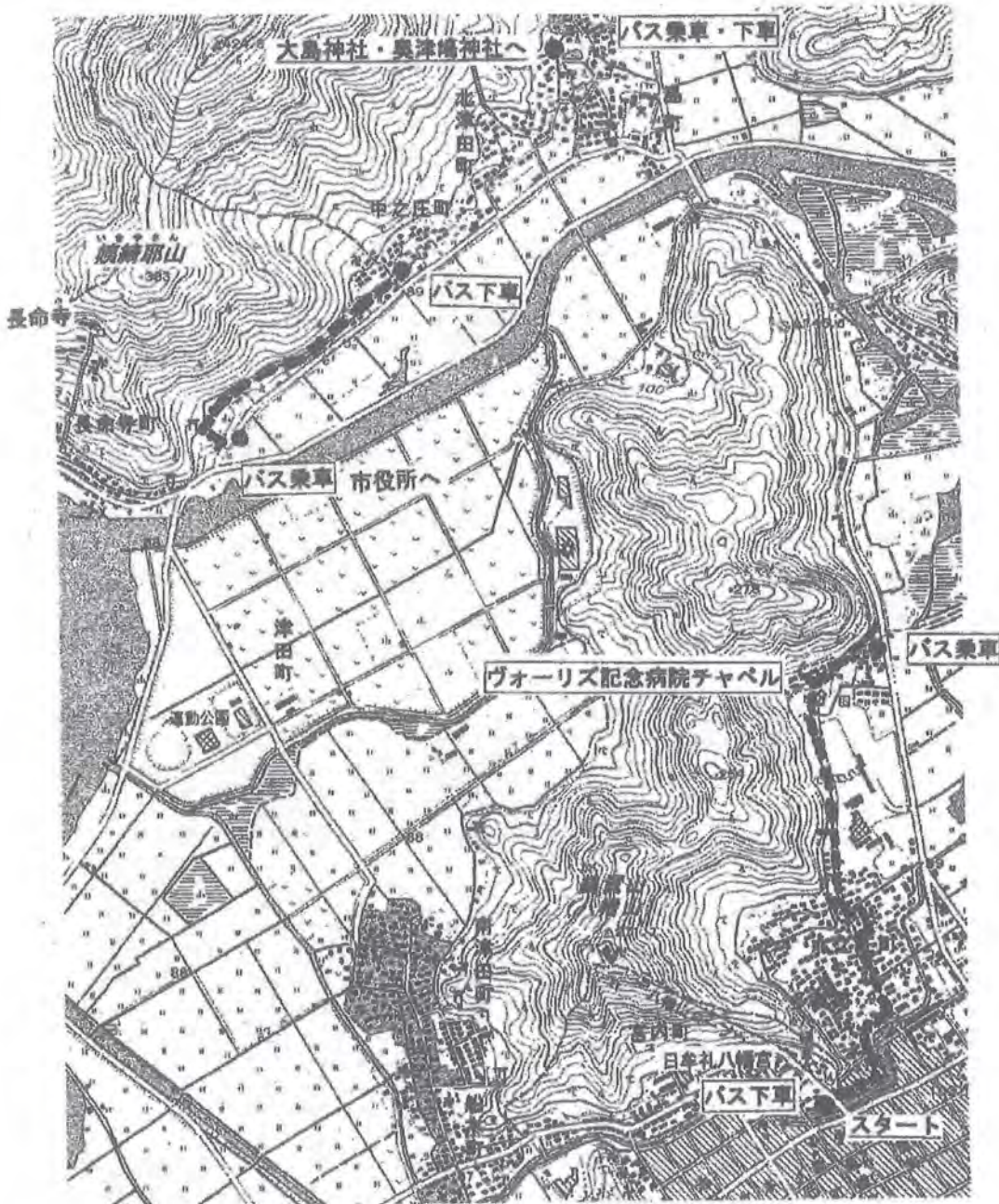
長命寺参詣古道 活動記録

| 期 日   | 活 動 内 容  |
|-------|--|
| 4月20日 | 長命寺巡礼街道 水と緑のまちづくりプロジェクト<br>第1回部会計画 各部会ごとに3月の方向性を調整する。  |
| 5月11日 | まちづくり部会で長命寺巡礼街道を検討<br>テーマの訂正として「長命寺参詣古道」とする。   |
| 5月21日 | 市史編纂学習会と交流<br>丸木船の水路交通 長命寺湖底遺跡について   |
| 6月23日 | ヴォーリズと地域のつながり(来幡100年)学習会 八幡公民館にて<br>私の提案 講師:ヴォーリズ記念館長 道城献一氏<br>資料:京都新聞記事、湖畔の声<br>(5・11にあらかじめ提案しておく)  |
| 7月2日  | (全国に建築物1000以上残されている。ツッカーハウスの改築は無理な様子)<br>あまり知られていないヴォーリズ遺跡をたどる部会<br>コース:サナトリウム元栗本病院長宅<br>旧郵便局の外柵の気づき(その人柄と地域の貢献)   |
| 7月4日  | 中之庄の古道下見コース<br>地元の梅原伝之助氏に聞く<br>中之庄公民館→愛宕大神→4tトラックが通る道幅「朝日の名号」<br>(近江八幡昔ばなし)<br>天之御中主尊大神と福城寺につながる話<br>午後 ユースホステル散策と古道 竹林の道 取水口 街道跡<br>栗本邸 → ツッカーハウス → 教会 → 恒春園  |
| 7月5日  | 打合せ<br>今後のスケジュール 11月に開催予定<br>次回資料館集合   |
| 7月9日  | 江八幡市資料館長 江南 洋 氏を訪問<br>長命寺参拝の交通路 船、水路 竹生島—長命寺港<br>陸路、観音正寺(桑実寺)<br>観音正寺(32番)→長命寺(31番)→谷汲寺(33番)<br>古墳(円山、奥津島)<br>水路と陸路<br>4日まいり(S15ごろまで)<br>水路:船で6丁津、切通しをつくり米や野菜、肥料を船で運ぶ<br>(商人が商品を運ぶ)<br>何故(寺社)が多いか商人のまちで衣食のゆとりの財力である<br>陸路:下街道(朝鮮人街道)<br>上街道(中仙道) |
| 7月21日 | 大嶋神社、奥津島神社訪問<br>深井宮司と対談、本当は(江州イキヤ山長命寺)   |
| 8月4日  | まちづくり部会 於:マナビー<br>今後の事業予定と開催日時決定会議<br>開催日時 11月5日 市役所からバス出発 AM9:30  |

- 8月18日 当日のコース、スケジュールの調整  
市役所集合 AM9:15  
出発 AM9:30
- 8月31日 昼食 奥津島神社 深井宮司のお話し  
おにぎり持ちでコースの再確認  
津田さんのお寺の横の道を通る  
津田さんのお寺の横の道を通る 時間的にも早く着く  
中之庄古道 中之庄神社で解散（中主尊神社）
- 9月1日 計画推進会議  
各部会の報告のみで今後方針確定できない  
吉田氏（桜の木を植える）、村西氏（八幡山の修景）も加わる。
- 9月9日 まちづくり部会  
プロジェクトでヴォーリズ氏のシンポジウム計画案をまとめて推進会議に提出する案（まんなか共和国に決まったらする）
- 9月12日 まちづくり部会  
ヴォーリズ病院チャペルでケイナ演奏 注目増える
- 10月13日 長命寺古道を訪ねる・・・チラシ出来上がる  
各役員宅、チラシ枚数を確認、配布依頼  
中間発表
- 11月3日 未来塾中間発表
- 11月5日 近江八幡水と緑市民環境会議（まちづくり部会）
- 11月7日 役員会  
反省とアンケート集計
- 11月19日 市民環境フェア準備  
写真展示用台紙貼り
- 11月20日 市環境フェア（日本まんなか共和国；福井・岐阜・滋賀・三重 同時開催）  
「長命寺参詣古道」写真展とイメージ図

長命寺参詣古道

(行程地図：参考)





## 「水の歴史と文化の街まぶち」

### 活動のねらい

水と緑の市民環境会議のまちづくり部会では、北里の朝鮮人街道、そして長命寺古道と歩いて中山道、古くは東山道という（12代）の景行天皇の王子（日本武尊）が長福寺の滝に立ち寄り瓶割山から伊勢に向かわれた。又は雄略天皇（21代）天智天皇（38代）は蒲生野の遊獵の折。戦乱に始まる壬申の乱も征夷軍の通行が頻繁であった。ますます通行が多くなる今の国道8号線となる中山道は古より主要道であった。地元の価値を学習し、市内全部廻ったところで市内マップと提言をしてゆくつもりです。

### テーマについて

初めは「石工と古墳群」で活動を進めようと思っていた。が途中から「水の歴史」を切り離しては考えられない文化財としての価値を感じ始めた。

### 活動の成果として

真光寺の重要文化財（鎌倉期）と、殿墓と呼ばれている五輪塔は参加者が知らなかったと口々に喜んでた。

福寿寺の座敷から見る、まぶちの田園はすばらしいと声が出る。椿神社の田養水の4分4分2分の、明神池の分水の仕組みには感心していた。石工の残した仕事場には行かずに諏訪神社の社殿裏の巨石を見る。

### 「水と歴史の街、まぶち」のマップをもとに開催当日をパソコンとプロジェクターでご案内いたします。

- ①2006年10月21日はまたとない小春日和。40名が参加。開会行事のあと市役所をバスは午前9時に出発。
- ②バスは中山道「日野川の舟渡し跡地」に到着。市内東横関町にあり、江戸時代浮世絵師の安藤広重が描いた街道の名残りがうかがえます。増水するとすぐ陸に引き上げられるように2艘の田舟を合わせて橋のかわりをして、舟艦もとっていたそうです。
- ③馬淵の真光寺には豪族馬淵氏の五輪塔を殿墓という佐々木定綱第15子広定が馬淵の地を領す祖とする重要文化財の木造聖観音立像（鎌倉期）がその面立ちは凜としている。真光寺住職の説明を聞きながらその古き時代の流れを思う。
- ④千僧供古墳群の一つ供養塚古墳群は県の指定史跡になっている。
- ⑤古墳群の一つの住連坊、安楽坊の墓。（このお話しは有名です。）古墳の上にあります。

⑥ トギス塚古墳跡地

古墳の盗掘があったりして、円墳古墳だといわれ、石が重ねてあるだけで大きな木が枝をひろげ田園にすばらしい風景を見せてくれています。

⑦ 椿神社は、千僧供の神社で鳥居の前にのこる田養水を決める石が残されている。それが4分4分2分馬淵4、千僧供4、岩倉2、という水争いのあとの神事が今も宮座として残されている。

⑧ 水分池（明神池）4分4分2分の水源地

⑨ 岩井大明神前で水分地からの水路の説明を受ける

⑩ 馬見岡神社境内で集まって儀式をする神殿前

⑪ 福寿寺の日本庭園（自然石がそのまま配置されている）

寺は黄梁宗829年創建淳和天皇の頼願寺と伝える県の名勝にされ自然と人との融合のすばらしい庭園である。四季ごとに花が美しい。

⑫ 4分4分2分の馬淵の祭りをスライドで見てください

⑬ 岩倉諏訪神社の社殿の横にも古墳が残されている。祭神は建御名方命（1402年）といわれうしろの山を登ると石工の仕事場が残されている。矢穴がそのままに残るが足許が危なくて参加者を誘導できない。何とか直し何億年前の石の話を聴きたい。

⑭ 長命寺には枯れたことがない不二の滝。少ない水量だがどんな干ばつでも枯れない（日本武尊）が瓶割山にのぼって伊勢に向かうときこの滝の水でのどをうるおされたという。参加者も歩いて暑かったのか水を手のひらに受けていた。

⑮ 雪の山古墳群。19基の古墳が残されている立穴式がはっきり残っている。

⑯ 閉会です。皆さんご苦勞さまでした。市役所に着くとアンケートを出してくださいとお願いしています。今日の行程は終わります。

花崗岩でできている岩倉山は良質の石を産出し石工達は石を切り暮らしていた。

住んでいる森と時代が産出する自然の石が八幡山城を秀次が築城に白鳥街道を運ぶ重労働で修羅街道と言われていた。石が岩倉山から八幡山の城へと運び出されていた。大阪城も安土城の時も切り出されていたその古文書が残されている。その仕事場を誰でも安全に見ることが出来るようにしてほしいと思う。

4分4分2分の水争いの神事と水路も聞き取りをしながら後世に残して、水は大切な自然の預かりものだということを伝えたい。宮座というかたちで残っているのは日本でもここだけ。先人の知恵を十分に学ぶことが出来る。





⑥トギス塚古墳



⑦椿神社の4分4分2分の石



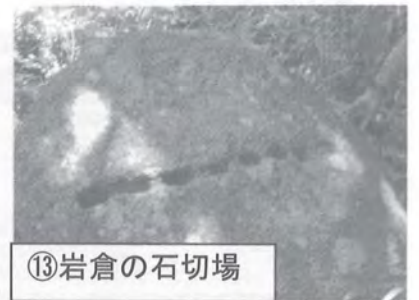
⑧水分池(明神池)



⑩馬見岡神社



⑪福寿寺の日本庭園



⑬岩倉の石切場



⑭長福寺町の不二滝



⑮古墳の説明

# 「ひとりから始まる」 子育て支援の 地域プロデュース

メンバー

平井 育恵

子育て支援を通じて「人をはぐくむまちづくり」に取り組みたいと考えました。

子育て中の親にとっては、生活環境によって“孤立育児”になる可能性があり、虐待などはその人の資質だけで生じるものではないと思われます。こうした、親にとって子育てしやすく、子どもの自ら育つ力を保障する環境づくりを、母親達の取り組みできることを探っていこうとしました。

行政が策定するアクションプラン、行動計画への検討に加わる機会を得つつ、子育てサークルをつなぐネットワークづくりと、アンケート等の調査を進めながら子育て支援活動の課題整理に取り組みました。

未来塾卒塾発表資料付録

「子育て支援と地域ネットワーク」

滋賀子育てネットワーク  
運営委員 平井育恵

- \* 自分の育ちのふりかえり(=私の育った環境)  
石川県小松市生まれ 田舎 小松基地のそば まわりは田んぼと畑  
3才位まで近所の子と遊ぶ機会がない ひとりあそびばかり  
身内・親戚の狭い付き合い 幼稚園は市内の私立へ  
小3のとき家が店を始める 急に地域の中心に 近所の高齢者の溜まり場  
子どもの中継基地 大人のうわさ話 店番や手伝いの経験  
京都に進学 大阪で就職 均等法1期生(=雅子様と同じ年)  
営業職5年キツかったけど面白かった 体調を崩して退職
- \* サークルとの出会い  
子連れの母親が集まったって、世間話以外になにができるの？冷めた視線で見ても子どもの情報は欲しい。これから新しく作るサークルなら入りやすいかも  
おもちゃ屋さんがやってくれるなら楽かも と思いきや「好きなようにしなさい」?!  
アトピー講演会や特技・興味を活かした講習会、フリマなど サークルってすごいかも…  
本当の活動はイベント当日ではなく打ち合わせ 用事があれば親しくなくても喋れる  
得意な事もわかる 会報係から2年目代表へ
- \* ネットワークとの出会い  
たまたま代表のとき声を掛けられる お付き合い・お手伝いなら…消極的参加  
サークルとネットワークの2重活動 県域という広範囲 運営委員が抜けていく  
何が出来るか、したいか、すべきか分からない日々 第2子出産で活動休止期  
ひよんなこと(保険見直し)から転機 パートの職 活動の方向にもヒント
- \* 生い立ちと活動の関係？  
もしも3歳までに他の子と混ざっていたら？保育園育ちだったら？  
→もっと同学年付き合いが上手になっていた？ 共感力があつた？  
もしもいとこたちを見ていなかったら？→小さい頃の気持ちを忘れていたかも  
もしも家が店をしていなかったら？ 営業職に就いていなかったら？  
→もっと人付き合いが苦手になっていた (今なら引きこもり?)  
「学校生活で傷ついてきた世代」by 山本健慈先生 競争・いじめ・なかまはずれの恐怖  
人が怖い でも一人はイヤ 傷つきたくない もう少し後で生まれていたらITママ  
閉鎖的な仲良しグループはイヤ 社会的に意味のある事をしたい=ネットワーク向き?
- \* 子育てはこどもの自立支援、では子育て支援は…  
新聞記事より…「子どもが自由に遊ぶ『場所』と『機会』がない」  
トライ&エラーのできる場所を確保してあげる  
虐待は昔もあつたが事件にならなかった？(実家の母から聞いた昔のご近所の話)  
虐待はその人の資質だけ(特殊な人だけが起こす)ではなく、環境次第(孤立した育児環境・  
経済的な苦境など)で追いつめられれば誰でもしてしまう危険がある  
母親の愛は「我が子第一」 だから「愛ゆえに間違う」→虐待にも  
母親がわが子の遊びをじっと見ていることの危険  
→ウチの子いじめられている?と思っても「やめて」と言えないストレス

→子ども本人よりも見ている親が辛い…「なぜ叱らないの？」他の親が敵に見える  
「してあげる」ではなく「してみせる」「させてあげる」  
「親を支援の受け手にしない」が今の課題  
「お客さん」からは対価を頂くべき→でなければ自主活動が潰れてしまう  
「癒し」「安心」から勇気付け、力付け、学びへの誘い、支援の担い手＝地域資源へ

\* これからのネットワークの役割

全国各地でさまざまな活動を展開するネットワークが発生・発展してきた  
まずは「当事者の」ネットワークから 「支援者の」～、「支援分野を越えた」～、  
「子育て分野を越えた」～ まちづくり(くにづくり・ひとづくり)の視点から  
市域・県域・広域それぞれの役割  
市域では事業主体になれる(地域密着)  
県域は中間支援組織  
次世代法行動計画の当事者評価も！  
広域は可能性を広げつつ、先端の利益を後進地に還元できるといい…

余談

H17.11月舞鶴次世代フォーラムで  
日本の少子化の状況が「危機的」とされる理由  
「あまりにも急激な環境変化と少子化が社会のきしみを招く」  
清水ちなみさん講演 「世代間ギャップ」特に母親と娘 皇室ご一家でさえあの断絶  
少子化対策企画室長 山氏 「この間にもうひと世代あったなら…」  
(元はフランスの学者さんの言葉らしい)

H17.1月「つどいの広場大阪セミナー」  
山本健慈先生いわく「世代が違うのではない、もはや民族が違う」

“情けは人の為ならず”回りまわって還ってきます！

オススメ本紹介

子育て支援に関わる方に必読の本  
<子育て支援でシャカイが変わる> 杉山千佳(著) 評論社  
<「子育て支援が親をダメにする」なんて言わせない> 大日向雅美(著) 岩波書店  
<母子密着と育児障害> 田中喜美子(著) 講談社+α新書  
<オニババ化する女たち> 三砂ちずる(著) 光文社新書

漫画ですが…山岸涼子の作品(育ち損なった子ども像を描く)  
<鬼> <天人唐草> <テレブシコーラ> ほか

滋賀子育てネットワークの活動概要（平成 17 年 2 月現在）

<対象地域> 滋賀県下全域

<会員対象> 子ども・子育て・子育て支援に関心のある個人や団体

（例：子育て中の親、サークルリーダー、ネットワーク関係者、  
子育て支援に関わる方＝個人、社協・生協・NPO等関係者、行政職員、ほか）

<会員数> 約 50 名

サークルリーダーの交流会から発足して 10 年目。

現在はサークルネットというよりも当事者の親と、支援者も含めた個人や団体のネットワークとなりつつある。

<目的>

- ・子育て中の親のエンパワメント
- ・支援者のスキルアップ
- ・市域ネットワークの形成促進
- ・県域ネットワークの更なる充実

これらを通じて

「滋賀県の子育て支援の充実」  
「子育てしやすいまちづくり」をめざす。

<自主事業・活動内容>

上記目的のための情報と学習機会の提供

- ・HP、メールニュース、会報での情報発信
- ・支援者学習会（会員限定）
- ・オープン交流会
- ・メーリングリスト

<行政や他団体との共催あるいは委託事業として>

- ・子育て支援をテーマとした講演会やフォーラム等の企画・運営
- ・講師派遣

<来年度の活動目標>

- ・県域ネットワークの充実（他団体との連携強化）
- ・市域ネットワークの形成支援（出張交流会の実施）
- ・サークルマップの更新（冊子とHP）
- ・会員の掘り起こし
- ・団体としての組織力強化（記録の徹底、情報共有、規約の見直し、総会の実施など）

ネットワークについての考察（滋賀子育てネットワーク H17.2.11 支援者学習会レジュメより）

●ネットワークの役割

- ・ 当事者（子育て中の親・支援者 個人・団体）の意見の集約 →対行政・地域・社会
- ・ 一定地域の中での連携（情報交換・役割分担・協同&協働&共催事業など）

●ネットワークの範囲

- ・ 分野での分類 子ども/子育て/子育て支援→他分野との連携 ex. 高齢者/まちづくり
- ・ 対象地域での分類 町村域/市区域/府県域/広域（京滋賀・京阪奈・近畿・全国）

●ネットワークにできること

<対象地域による分類で最も大きな違い>

- ・ 市区町村域では、施策の実施にあたる自治体に対応できる→支援の事業主体になれる
- ・ 府県域以上の広域ネットワーク→中間支援的活動

<例>

① 情報発信

ニュースレターの発行、メールニュース、ホームページの開設、啓発イベントなど

② 情報収集

③ 交流と情報交換

交流会や講座・学習会、メーリングリスト→エンパワメント、スキルアップ

④ 意見集約

座談会・アンケートほかで意見のすくい上げ

→自らの活動の検証

→支援者向けの研修への講師派遣により当事者の声を伝える

→自治体の支援施策への反映（行動計画の評価など）

⑤ 役割分担

重複を避け、補完的な活動展開により地域内で効率的かつ効果的な支援を提供  
情報共有により、必要な人に最も適切な支援を届ける

⑥ 支援事業を実施する

つどいの広場（サロン）事業、プレーパーク、託児サービス事業ほか

子育て教室や人形劇など地域にあるリソースを活用した事業やイベントの開催

⑦ 先進地域の恩恵を後進地域に還元する（あるいは中央の施策・動向を地方に伝える）

⑧ 各地の実情を把握整理して他地域・中央に伝える（施策に反映させる）

⑨ 必要に応じて新しい支援の形を模索

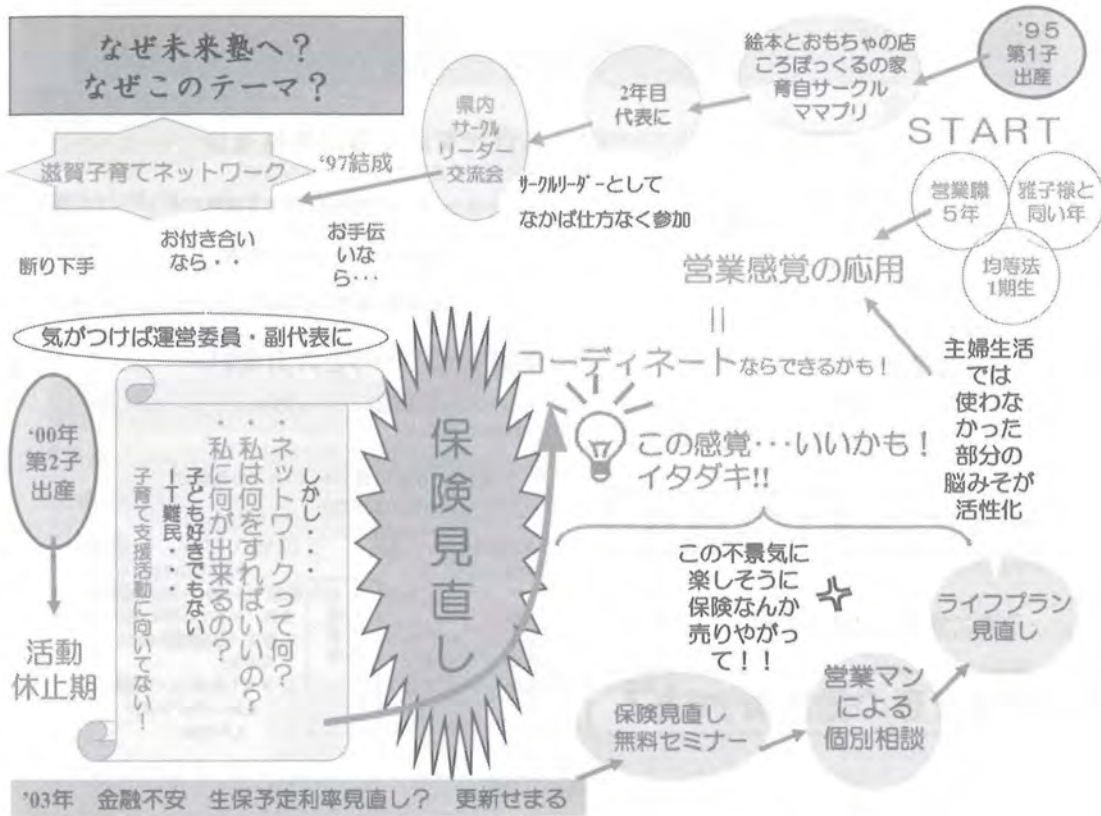
⑦～⑨が特に広域ネットワークの担うところ

市町村域ネットワークでは①～⑨全てできる（ex. 新座など）

そこに住む人材・地域リソースしだい

グループ研究活動④ 「ひとりから始まる」子育て支援のプロデュース

卒塾後の取り組みについて



## 課題発見

### 山本健慈先生

和歌山大学教授  
心の子育てインターねっと関西  
アトム共同保育所

「今の親は・・・」

- ・学校で傷ついてきた世代
- ・人を助けたことも、  
人に助けられたこともない世代

“HELP!”が言えない世代

・子育て支援に必要なのは

「地域資源の総動員」である

### 次世代育成支援対策推進法

- ・10年間の時限立法
- ・自治体と企業に行動計画の策定を義務付け  
厚生労働省少子化対策室長による  
対応指導講義(県→市町村)を聴講

この法律、使えるんちゃう!?

### 全国ネットワークとの出会い

'04秋「つどいの広場全国セミナー in 普通寺」  
直前まで開催知らず・・・

なぜ私(滋賀子育てネット)にこの情報が  
入ってこないのか!?

県の担当者から  
紹介

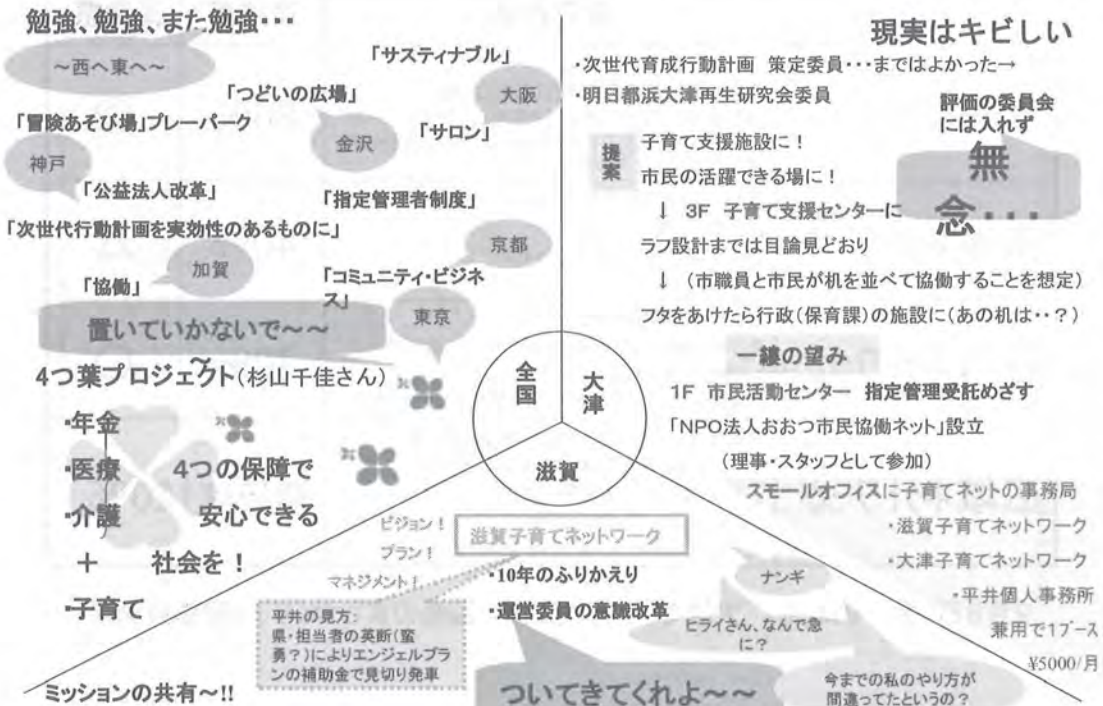
・京都  
・宇治  
・亀岡  
・山城

ネットワー  
ク代表

全国規模  
メーリング  
リスト

東京 杉山千佳さん  
横浜 「びーのびー」奥山さん  
金沢 「子育て応援団」橋さん  
香川 「わはは」中橋さん  
などなど  
子育て支援カリスマ満載!  
最新の情報・課題が  
入手可能に

できた事・できなかった事



グループ研究活動④ 「ひとりから始まる」子育て支援のプロデュース

卒業後の取り組みについて

どこまで取り組めたか

|          | 自己評価  | 達成度     | 満足感 |
|----------|---|---------|-----|
| サークル     | 10周年記念文集編集<br>通信私物化「ヘナチョコWAY日記」で波乱<br>約1年半にわたり「次世代法を考える日記」20～30<br>ページの別冊日記を紙・印刷代自己負担で同封。赤<br>裸々な表現に賛否両論      | 80%     | ◎   |
| 市域ネットワーク | イチかバチかで明日都をネタにアンケート実施<br>企画倒れ状態のまま<br>(BUTこのままでは終わらへんで～！)   | 40%     | △   |
| 県域ネットワーク | 「痛みを伴う構造改革」？<br>あぶなっかしいながらも、何とかメンバーの理解<br>18年度代表交代なるか<br>大津に拠点(スモールオフィスに事務局)獲得したい                             | 70%     | ○   |
| 広域ネットワーク | 全国規模メーリング参加により視野が広がる<br>KKP(京都/きんき・きっず・プロジェクト)<br>: 京都府域/近畿圏ネットワーク<br>「協働」についての学びと実践<br>「サークルの評価法(価値)」を見いだしたい | 期待度120% |     |

9月8日(金)・9日(土) 大津で「子育て支援で協働のまちづくり！」研修会開催

そしてヘナチョコWAYはつづく...

「実践コミュニティワーク」(ビル・リー著)

の真髄はソール・アリンスキーの言葉にある

オーガナイザーとしてわたしは

世界がこうであってほしい と思うところからでなく

世界のありのままのところ からはじめる

世界をありのままに受け止める ということは

世界をあるべき姿に変えていこう という思いを

弱めるものでは決してない

世界をあるべき姿に変えていくには

まず現状から始めなければならない

ヒライ的解釈

||

節操のない 原理主義者 ~ひとりから始める~

グループ研究活動④ 「ひとりから始まる」子育て支援のプロデュース

卒塾後の取り組みについて

卒塾後の経過

|          | 平成18年度のごき   | 今後のごき  | 私見                                      |
|----------|---|--|---|
| サークル     | 10周年記念文集完成 会員内で配布   | 「サークル運営マニュアル」化？<br>会員以外の人の役に立つものにした(出版？)   | 優秀な人材がいるのにサークル止まり                       |
| 市域ネットワーク | 「滋賀子育てネットワーク/大津ブロック」<br>としては頓挫したまま  | 市民活動センターのスタッフとして<br>「協働・交流部会」での<br>市内分野別団体への呼びかけ   | 人材はいるが分散<br>平井とともに核になれる<br>パートナーを発掘する必要 |
| 県域ネットワーク | 「滋賀子育てネットワーク」<br>・ネットワークの方向付けが分裂気味<br>・運営委員間の情報共有・意思疎通は困難   | ・市域ネットワークの連絡協議会的な意義<br>(当事者の意見の集約/情報交換)<br>・「中間支援組織」としての機能<br>(直接支援者を支援する)   | 「滋賀子育てネットワーク」とは距離をとる                    |
| 広域ネットワーク | KKPとの連携<br>・'06.9月大津「子育て支援で協働のまちづくり」<br>・'06.12月彦根「いま、なぜネットワーク？」<br>教育・企業方面の支援者との出会い<br>・'06.12月「子育て文化協同全国集会inしが」実行委員会事務局 | 「協働のパートナー」<br>「当事者の意見を集約し各方面に伝える」<br>役割のウツツとしてネットワークが必要<br>＝子育て支援分野の県域～広域ネットワーク<br>各研修会の参加者の繋がりを継続していく…どの研修会・誰を核として、どの役割をどうやって担わせていくか。 | 中間支援・コーディネートを活動の中心とする                   |

「子育て支援で社会を変える！」 市民活動、公益、国の制度、人の意識…様々な面での変革期。「この10年が勝負」という声も聞くが、それならば今の女性(子育て世代)がもっと市民として育たなければならないように思う。優秀な人材は滋賀にもいるが、これからは裾野を広げる取り組みが必要と思う。次世代法行動計画の期間中に間に合わせたい！

# ビワマスを琵琶湖の シンボルに育てる

## ビワマスグループ

### メンバー

今井 洋、 高橋 潔、 坪内稔夫、  
西岡信夫、 吉原史雄

琵琶湖の固有種としてその名に湖の名を持つビワマスは、近年、漁獲高の激減してきました。サケ科の魚と同じく、産卵のために生まれた川に帰ってきますので、琵琶湖に注ぐ河川環境の変化が、ビワマスの生態系にも大きく影響を与えるのです。

また、「あめのうお」は、ビワマスの別名。琵琶湖周辺に住む人々にとっては「あめのうおご飯」などとして重要な食文化をもった魚でもあります。ビワマスの身は、本当においしいものですが、流通価格の評価が低いことも残念です。

グループでは、ビワマスの琵琶湖（南湖）への回帰を目標とすることで、琵琶湖全体の生息・湖水環境を整えることに社会が変わることを期待しています。長期的な取り組みになりますが、この行動が、県民が身近な川の役割を見つめ直すきっかけになることを願っています。

**ビワマスを琵琶湖のシンボルに育てる**  
 未来塾6期生 ビワマスグループ

西岡、今井、高橋、吉原、坪内、白石、高峯、  
 指導：高橋 馨（理学博士・前水産試験場次長）

- 成熟には2～4年かかり、大きいものは60cmを超える。
- 琵琶湖では、アユ、スジエビなどを食べて育つ。

これが『ビワマス』だ！



**なぜ ビワマスなのか？**  
 (ビワマスの生活史)



**大宮川（南湖での活動拠点）**



**【ビワマスグループ活動報告】**

1. 自然・環境との共生をめざして

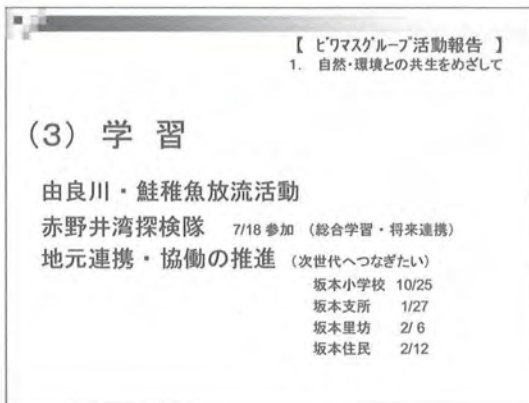
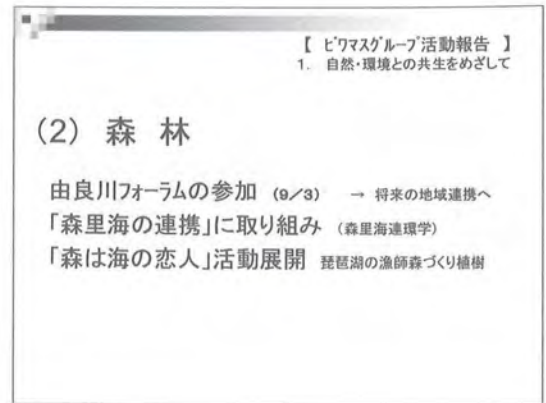
【ビワマスグループ活動報告】

1. 自然・環境との共生をめざして


(1) 河川

大宮川は最高のフィールド\* 比叡山(森)ー坂本(川)ー南湖(湖)  
 ビワマス稚魚放流のための調査活動  
 (7/6、8/27、11/5、1/27)

水路・水量・水温および堰堤・川床・川岸状況  
 大宮川(治水)改修計画／大津土木事務所 (7/6)



【ビワマスグループ活動報告】  
1. 自然・環境との共生をめざして



将来の運営・連携  
「赤野井湾探検隊」に参加(7/18)  
赤野井湾エリ魚体験

【ビワマスグループ活動報告】

2. 漁業・食材の  
復活をめざして

【ビワマスグループ活動報告】  
2. 漁業・食材の復活をめざして

(1) 漁業

南湖はギル・バス外来魚が占領  
坂本漁港(12/25)

北湖は在来魚健在!  
「ビワマス漁見学会」参加(7/23)

【ビワマスグループ活動報告】  
2. 漁業・食材の復活をめざして



南湖  
占領!

南湖の外来魚

【ビワマスグループ活動報告】  
2. 漁業・食材の復活をめざして



「ビワマス漁見学会」への参加(7/23) 漁獲/調理/試食

【ビワマスグループ活動報告】  
2. 漁業・食材の復活をめざして

(2) 振興策

県水産課 ビワマス増殖施策  
放流・漁獲・生態・市場 (11/29面談)

マキノ漁連事業場ビワマス稚魚飼育研修  
捕獲・採卵・孵化・稚魚飼育・放流 (10/16)

【ビワマスグループ活動報告】  
2. 漁業・食材の復活をめざして

県流達・高島事業場(マキノ)の稚魚飼育研修(10/16)

捕獲・採卵・孵化・稚魚飼育・放流

高島事業場

親魚の特別採捕(安曇)

ビワマス稚魚飼育水槽

放流魚のサンプル

【ビワマスグループ活動報告】  
2. 漁業・食材の復活をめざして

### (3) 食材

ビワマスの造り・あめのうお御飯 試食、実感  
「ビワマス漁見学会」参加 (7/23)

マビワマスのなれずし 試食、食文化を学ぶ  
「ふなずし品評会」参加 (1/28)

ビワマス・キャンペーン用具の作成  
ビワマスTシャツ作成発表 (1/28)

【ビワマスグループ活動報告】  
2. 漁業・食材の復活をめざして

ビワマスつくり (7/23)

ビワマスなれずし (1/28)

ビワマスつくり ビワマスなれずし

【ビワマスグループ活動報告】  
2. 漁業・食材の復活をめざして

ビワマス Tシャツ

【ビワマスグループ活動報告】

### 3. ビワマスの 歴史・文化

【ビワマスグループ活動報告】  
3. ビワマスの歴史・文化

野洲川のビワマス  
御上神社「献江鮭祭」 (10/5参加)

「ビワマス・メモ」の発刊  
9月から12号までを発行  
(ビワマスの情報収集とメンバーの継続的連携)

【ビワマスグループ活動報告】  
3. ビワマスの歴史・文化

野洲川のビワマス  
御上神社「献江鮭祭」  
(10/5参加)



献江鮭神事御供物




神社献江鮭神事



神前のアメノウオ

【ビワマスグループ活動報告】  
3. ビワマスの歴史・文化

「ビワマス・メモ」  
発刊 (9/19～)



情報交換と継続的連携

ビワマス アクションプラン  
目標年 平成26年・3期10年

|                            | 平成17年～19年   | 20年～22年                   | 23年～26年  |
|----------------------------|---|---------------------------|--|
| 瀬上対象河川<br>(環境を考える)         | 大宮川 (モデルシステムづくり)  | 大宮川<br>和瀬川                | 大宮川、和瀬川、<br>安曇川、天野川、<br>野洲川、法亀川<br>(県内河川ネット<br>ワーク化を目指す) |
| ビワマスの<br>総合的価値を<br>高めるために  | ビワマスフォーラムの立ち上げ<br>ビワマスグループの組織化(NPO等)                                | 継続、連携<br>(由良川フォー<br>ラムなど) | 継続拡大   |
| 普及<br>宣伝                   | 試食会の実施<br>湖魚の産地直売の協力<br>全国豊かな食づくり大会への参加<br>ビワマス釣り大会の実施<br>ビワマスメモの発行 | 継続拡大                      | 継続拡大   |
| その他<br>(おまけのうお祭典等<br>との連携) | 自家製ふなずし品評会<br>ビワマスに関するグッズの製作、販売<br>(Tシャツ、キャップなど)                    | 継続拡大                      | 継続拡大   |

グループの卒塾後(今年中)活動予定

- 地元坂本での拠点づくり (理解・協力者探し)
- ビワマス種苗試験放流の可能性を探る  
(3月下旬を目指して) 大宮川上流
- グループの組織強化を議論し、結論を出す  
(NPO法人)
- 行政とのタイアップ強化
- 参画するメンバーを充実させる

最後に  
カンパックスーモンの夢の実現に向かって

グループ活動は

楽しく  
気長に  
着実に

をモットーに！

ビワマスグループ活動実績

| 開催日    | グループ研究の内容(講師等含む)                            | 参加者名             | 開催場所                       |
|--------|---|------------------|----------------------------|
| (2005) |   |                  |                            |
| 7.06   | ビワマス放流適地の調査(高橋誓・理学博士<br>前水産試験場次長/以下経歴等省略)   | 西岡・今井            | 大宮川(日吉大社より上<br>流域)         |
| 7.06   | 大宮川改修計画(下流域治水計画/玉置課<br>長)(高橋誓)              | 西岡・今井・<br>高橋潔    | 大津土木事務所                    |
| 7.18   | 南湖での最汚染地域の実態調査(エリ漁/<br>守山漁協)及び子供環境教育研修      | 今井・高橋潔           | 赤野井湾(探検隊・びわ<br>こ豊饒の里主催)    |
| 7.23   | ビワマス刺網漁体験・試食会(刺身、煮付け<br>とあめのうおご飯)           | 西岡・今井・<br>高橋潔    | /あめのうお俱樂部主<br>催)           |
| 8.27   | ビワマス放流適地・農業用水路の調査(高橋<br>誓)                  | 西岡・今井・<br>高橋潔・坪内 | 大宮川(日吉大社より<br>中・下流域)       |
| 9.03   | 由良川河口域から鮭溯上地点(福知山)迄<br>の現場踏査                | 西岡・今井・<br>高橋潔    | 由良川河口~上流約3<br>0KMIにある支流牧川迄 |
| 9.03   | 鮭稚魚放流を森里海連携で行うことを標榜<br>している由良川フォーラムの研修      | 西岡・今井・<br>高橋潔・坪内 | 綾部市中央公民館                   |
| 10.05  | 献江鮭祭催行・お供物のビワマス調査                           | 西岡・今井            | 三上山麓野洲御上神社                 |
| 10.16  | 県内唯一のビワマス採卵・孵化・稚魚養殖場<br>見学(高橋誓)             | 西岡・今井・<br>高橋潔    | 県漁連高島事業場(マ<br>キノ町知内川右岸)    |
| 10.25  | ビワマス放流イベント参加意向打診(坂本小<br>学校校長・教頭・理科担当上田教諭)   | 西岡・今井            | 坂本小学校                      |
| 11.05  | 主要な支流でビワマス降湖と溯上水路の調<br>査(高橋誓)               | 西岡・今井・<br>高橋潔・坪内 | 大宮川(日吉大社より下<br>流域)及び支流磯成川  |
| 11.29  | ビワマスについて過去の対策及び今後の増<br>殖策(放流実績・漁獲量/藤岡農学博士)  | 西岡・今井・<br>高橋潔    | 県庁農政水産部水産課                 |
| 12.25  | 元組合長鶴飼新八・広之親子に大宮川・南<br>湖の漁業を伺う(高橋誓)         | 西岡・今井            | 大津漁業協同組合坂本<br>漁港事務所        |
| (2006) |   |                  |                            |
| 1.27   | ビワマス放流活動概要説明、今後の地域協<br>力をお願い(大津・文化市民交流福田課長) | 西岡・今井・<br>高橋潔    | 坂本支所                       |
| 1.28   | 考える(フナズシ品評会・滋賀大堀越教授ほ<br>か)                  | 西岡・今井・<br>高橋潔    | 彦根勤労福祉会館(あ<br>めのうお俱樂部主催)   |
| 2.06   | 里坊を訪ね比叡山と大宮川の関係・放流ヒ<br>ントを伺う(山田能裕大僧正)       | 西岡・今井・<br>高橋潔    | 坂本里坊瑞応院                    |
| 2.12   | 大宮川の農業用水元締めを訪ね、放流ヒ<br>ントを伺う(坂本農業清水委員/高橋誓)   | 西岡・今井・<br>高橋潔    | 坂本5~7丁目大宮川<br>支流の八条川・井神川   |
| 3.01   | 未来塾活動発表会パワーポイント内容最終<br>打ち合わせ                | 西岡・今井・<br>坪内・吉原  | 守山市役所会議室                   |
| 3.11   | おうみ未来塾グループ研究活動成果発表会<br>(高橋誓・吉原・白石・高峯)       | 西岡・今井・<br>高橋潔・坪内 | 県立県民交流センター<br>(ピアザ淡海3階)    |
| 3.26   | ビワマス稚魚の放流実施(1200匹/調査標<br>識用アブラビレカット800匹を含む) | 高橋誓/潔・<br>高峯     | 大宮川日吉三橋下及び<br>中流           |

## 坂本・大宮川でビワマス稚魚放流を実施（平成18年3月26日）

（京都新聞掲載）

### 南湖で「ビワマス」復活させよう

### 大津の市民グループ、稚魚 1000 匹放流



大宮川にビワマスを放流するメンバー＝大津市内で

琵琶湖の固有種「ビワマス」を南湖でも復活させよと、市民グループが26日、大津市坂本5丁目の大宮川で稚魚約1000匹を放流した。澄み切った川の中で、元気よく泳ぎ回る稚魚の成長を祈った。

稚魚を放流したのは、元県職員などで作る「ビワマスを琵琶湖のシンボルに育てる会(仮称)」のメンバー5人。北湖に流れ込む河川では、県が毎年稚魚を放流しているが、南湖の河川では行われていないため、初めて企画した。

大宮川は、比叡山からのきれいな水が年間通じて豊富で、1950年前後まで大宮川でビワマスの遡上(そじょう)が見られたという。メンバーは、高島市の養殖場から分けてもらった体長5-7センチの稚魚をバケツやたらいに入れ、静かに川に流し入れた。ビワマスが群れになって泳ぐ姿を見ながら、「元気で大きくなってね」「絶対戻ってこいよ」と声をかけていた。

稚魚が琵琶湖に下る6月までは毎週観察を続ける予定で、同会の西岡信夫代表は「来年以降も放流を続けて調査し、多くの人に琵琶湖や河川の環境に関心を持ってもらうきっかけになれば」と話していた。  
-3月26日-

（中日新聞掲載）

### 大宮川にビワマス稚魚を放流 大津の市民グループ

南湖でのビワマス復活を目指す市民グループ「ビワマスを琵琶湖のシンボルに育てる会」が二十六日、大津市坂本五丁目の大宮川で稚魚の放流をした。現在、ビワマスは姉川など北湖の川では遡上(そじょう)するが、南湖ではほとんど姿を消している。

同会によると、大宮川でも昭和二十年代まではビワマスが確認されたという。

この日は同会のメンバーら約十人が集合。日吉大社近くの大宮川で、体長五-七センチの稚魚約千匹を放流した。稚魚は数カ月後に琵琶湖に下り、エビや魚を食べて五〇センチ前後まで成長。「うまくいけば三-四年後に大宮川に帰ってくる」という。

今後、講演会や観察会なども予定しているという。同会の代表西岡信夫さん(65)は「地元の子どもたちとも協力していきたい。ビワマスの放流や遡上(そじょう)が、川や琵琶湖に興味を持つきっかけになれば」と話した。  
-3月27日-

（毎日新聞掲載）

## 琵琶湖固有種・ビワマス 南湖でも遡上・産卵復活を 「シンボルに育てる会」が大津で稚魚放流、 刺し身や塩焼きに美味——観察会や試食会企画

サケ科の琵琶湖固有種、ビワマス。かつては琵琶湖に流れ込む多くの河川で遡上(そじょう)・産卵が見られたというが、近年はほとんど琵琶湖北部のみで年20~30トンしか取れなくなり、刺し身や塩焼きの美味を味わう機会は非常に限られている。

このビワマスを南湖・大津市の河川に呼び戻そうという夢のある取り組みが始まった。

3月下旬の日曜日、大津市坂本の日吉大社を通って流れる大宮川の脇に、長靴をはいた男女数人が集まった。同大社からすぐの二宮橋の脇から川辺に下り、体長7センチほどの稚魚約1000匹をバケツから次々と川に放すと、魚はその場で流れに逆らって泳ぎ始めた。流れの弱いところに集まっている様子が目に見えると、周囲に集まった人々から歓声が上がった。

放流を行ったのは、市民グループ「ビワマスを琵琶湖のシンボルに育てる会」のメンバーたち。代表の西岡信夫さん(65)＝大津市神宮町＝は醒井養鱒場、水産課

などに勤務後、01年3月に県職員を退職。同年6月に「あめのうお倶楽部」(現在、会員約60人)をつくって活動を始めた。「あめのうお」はビワマスの別名。西岡さんは定年後に向け、その5年ほど前から構想を温め、水産・林業関係など各方面の知人に声を掛けて準備を進めたという。県の外郭団体の市民講座「おのみ未来塾」参加者を交えて「育てる会」をつくり、現地での放流活動に踏み出した。

活動としてビワマスの放流を選んだのは、(1)「湖の底」から川を上って「山の上」までを生活圏としているため、その生態を追うと自然に琵琶湖と集水域の水環境が見えてくる(2)美味なのに、現状では価値の評価が十分にされていない(3)けなげな姿が共感を呼ぶ——などの理由からだという。

大宮川での放流は、グループの活動のモデルケースという位置づけ。今後、魚が琵琶湖に下る6月ごろにかけて観察会を開く他、試食会などの企画を温めている。

漁連や生協と協力して、商品としてのビワマスの価値向上を図ることも構想。さらに、西岡さんらが力を入れようとしているのが、地元の人たちや子供たちに活動に参加してもらうこと。「地に足のついた活動として、次の世代にも引き継いでいきたい」という。

将来は、和邇川や野洲川、天野川にも活動の場を広げ、それぞれの活動をつないでいきたいとしている。

南湖は、現在ビワマスが捕獲されている北湖と比べて、水深が浅く、水温も高い。

水質も異なり、ビワマス遡上の条件が整っているとは言い難い。しかし、放流場所の近くに住む清水紘一さん(66)＝大津市坂本6＝の話では、昭和20年代ごろまでは、家の前の水路をビワマスが上っていたらしい。また、大宮川の河口近くにエリを設置している漁師、鶴飼広之さん(46)＝同市尾花川＝によると、近年も毎年1、2匹のビワマスがかかっているという。

放流時には、水生昆虫に詳しい琵琶湖博物館の榎永一宏学芸員も姿を見せ、流れの中の石をひっくり返して、ビワマスのエサになるカゲロウの幼虫がいることを確認した。

南湖・大宮川にビワマスは戻ってくるか。西岡さんは「厳しいかもしれないが、可能性はある」と話し、鶴飼さんも「地域の人と一緒に川づくりをしていく第一歩になれば」と期待を寄せている。

=====

### ◇ビワマス

コアユやスジエビを食べ、大きなものは、ふ化後4~5年で体長50センチ以上に育つ。琵琶湖の深場を主なすみかになると言われ、産卵期には降雨の後に大挙して河川を上ることから「アメノウオ(アメノイオ)」とも呼ばれる。

「アメノイオ御飯」は滋賀の食文化財(県選択無形民俗文化財)。—4月15日—

## 2006年4月以降の活動記録

### ・2006、4、3 A、M7:00～ 日吉大社放流地点

#### 第1回稚魚放流後観察会(西岡、今井、高峯、高橋)

- ・日吉大社境内2地点及び坂本4丁目にて、放流後の稚魚動向を観察。
- ・日吉大社境内最上流部にて、3尾の魚影を確認。
- ・それ以外の放流地点では、視認できず。

### ・2006、4、15 A、M7:00～ 日吉大社放流地点

#### 第2回稚魚放流後観察会(西岡、今井、高峯、高橋)

- ・前回同様の3地点にて、稚魚の動向調査。
- ・各地点とも、魚影を確認できず。
- ・人間の目で見えるようでは、鳥の目から逃れられないと一同納得。

### ・2006、5、3 A、M7:00～ 日吉大社放流地点

#### 第3回稚魚放流後観察会(西岡、今井、高峯、高橋)

- ・前回同様の3地点にて、稚魚の動向調査。
- ・各地点とも、魚影を確認できず。

その後、坂本漁港に移動し、猪飼氏と接触を図るも、出漁中のためあきらめる。

守山漁協で、ビワマスの稚魚がエリに入ったとの情報が入り、守山漁港へ移動。

- ・守山漁協にて保管されている、ビワマスの稚魚を確認するも、放流マークなし。

### ・2006、5、17 P、M1:00 大津市役所

\* 大津市パワーアップ活動支援事業として申請。

\* グループ名を「びわますを琵琶湖のシンボルに育てる会」とする。

\* 申請した補助事業の内容

(1) 事業の名称 ビワマスの南湖回遊計画・大宮川プロジェクト

(2) 事業の目的 琵琶湖とその流入河川を生涯の場とする固有種ビワマスを追跡・観察することにより、身近な環境保全に取り組む。また、この会の活動を通して、ビワマスを名実ともに琵琶湖のシンボルとして認知してもらう。

(3) 事業の内容 大宮川及びその周辺流域を事業活動の場とし、本会が主体的に事業活動を実践する。具体的な事業活動については、地域自治会、老人クラブ、子供会の参画をいただき、ビワマスの勉強会、ビワマスの稚魚放流、遡上(回帰)の観察、追跡を実施し、その活動を通して身近な環境問題に関心を深めてもらえる場とする。

### ・2006、6、1

\* 大津市パワーアップ活動支援事業として認定を受ける。

\* 大津市より13万円(上限)の交付金が交付される事となる。

・ 2006、 6、 14

浜大津 明日都1階大津市市民活動センターにスモールオフィスの申請。

・ 2006、 6、 21

\* 大津土木事務所訪問

大宮川及びその流域河川に飼育槽設置の可否についての相談。

1級河川のため、常設は無理。

今後、個人宅の流入池での飼育槽設置の方向で検討する。

\* 坂本支所訪問 支所長と面談

坂本地区全般の状況調査。

自治会、老人会の現状について。

地域独特の難しい問題があるとのこと。

・ 2006、 6、 22

\* 森田フーズ(株) 訪問。

新開発の急速冷凍技術の調査。

・ 鮮度、味覚保存の大幅な技術向上。

・ この技術による、ビワマスの新たな市場展開の可能性を感じる。

・ 2006、 6、 30

\* 市民活動センターにオフィススペースを認可される。

「びわますを琵琶湖のシンボルに育てる会」としての事務所を確保。

・ 2006、 7、 5 滋賀県庁

\* 第1回びわますフォーラム企画書提出

\* 全国豊かな湖づくり大会滋賀県実行委員会後援事業として

\* 開催要領

- |            |   |
|------------|---|
| (1) 行事の名称  | 第1回びわますフォーラム  |
| (2) 開催日時   | 平成18年7月16日(日) PM2:00~PM4:30   |
| (3) 開催場所   | 琵琶湖博物館ホール   |
| (4) 参加予定人数 | 約200人   |
| (5) 内容     | ① 記念講演「ビワマスの博物誌」<br>川那部 浩哉(ビワ湖博物館館長)<br>② ビワマスの最新情報と討論会<br>「琵琶湖の幸 ビワマス」         |
| (6) 参加料    | 無料  |
| (7) 後援団体   | ・ 滋賀県漁業協同組合連合会<br>・ 生活協同組合 コープしが<br>・ 財団法人淡海文化振興財団<br>・ 第27回全国豊かな湖づくり大会滋賀県実行委員会 |

・2006、7、16 琵琶湖博物館ホール

\* 第1回びわますフォーラムの開催

- ・参加者約100名で目標の半数。
- ・県外からの参加もあり、好評のうちに開催。
- ・今後の継続的な開催を希望される。

・2006、7、26 市民活動センター

\* びわますを琵琶湖のシンボルに育てる会ミーティング

- ・メンバーの猪飼さんより、放流稚魚についての報告。
- ・猪飼さんのエリに、大雨の後16尾が入る。
- ・かなりの稚魚が、北湖を目指したと予測される。
- ・今後の活動についての確認。

・2006、8、9 市民活動センター

\* びわますを琵琶湖のシンボルに育てる会ミーティング

- ・今後の大宮川プロジェクトの進めかたについて。
  - ① 大宮川プロジェクト18年度実行委員会の設置。
  - ② 趣意書の作成。
  - ③ メンバーの勧誘。
  - ④ 3月の放流日程。

・2006、9、9 坂本支所 PM 1:30~PM 3:30

\* 第1回大宮川プロジェクト坂本説明会及び意見交換会

びわます南湖回遊計画“大宮川プロジェクト”に関し、坂本地元との協働を目指して初めての会合。活動の主旨とびわまスの説明を行い、地元の方達と意見交換の機会を持った。

- 1、大宮川プロジェクトについての説明。
- 2、びわマスについて
- 3、意見交換
  - ・飼育の可否
  - ・放流適地
  - ・イベント
  - ・放流後の観察

・2006、10、29 高島市百瀬漁協組合

\* びわまスの採卵現場見学会

今年は少雨のため、各河川の水量が極端に少なく、産卵のための遡上が困難。そのため、各エリに大変多くのびわマスが入っている。又、例年に無くびわマスが豊漁で、北湖各地で捕獲されている。

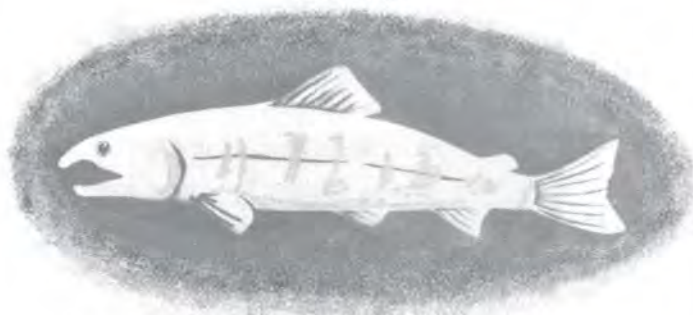
平成18年7月16日(日)

14:00~16:30

琵琶湖博物館 ホール

(滋賀県草津市下物町1091)

参加無料



琵琶湖の固有種であるビワマスは、琵琶湖の深部から川、森、山にいたる「縦の循環」を繰り返すことから、まさに滋賀の自然環境を写す鏡の役割を果たしています。

ビワマスをめぐる最新情報を通じて、身近な環境について考えてみませんか？

14:00~14:40

記念講演 「ビワマスの博物誌」

川那部 浩哉 (琵琶湖博物館館長)

14:50~16:30

ビワマス最新情報と討論「琵琶湖の幸ビワマス」



# 第一回 びわますフォーラム

主催 あめのうお(びわます)倶楽部 / 共催 ビワマスを琵琶湖のシンボルに育てる会  
後援 滋賀県漁業協同組合連合会 / 滋賀県立琵琶湖博物館 / 生活協同組合コープしが  
淡海ネットワークセンター / 第27回全国豊かな海づくり大会滋賀県実行委員会

## プログラム

14:00～14:40 記念講演

「ビワマスの博物誌」 川那部 浩哉 (琵琶湖博物館館長)

14:50～16:30 ビワマス最新情報と討論 「琵琶湖の幸ビワマス」

### 増やす

琵琶湖に生きるビワマスの生態と増殖事業

「ビワマスの母川回帰と資源の現状」 田中 秀具 さん (滋賀県水産試験場)

「ビワマス増殖事業と河川放流の現状」 小林 真 さん

(滋賀県漁業協同組合連合会)

### 捕る

ビワマスの捕り方、食べ方

「ビワマスの旬と漁」 松岡 正富 さん (朝日漁業協同組合)

### 食卓へ

鮮度を保って食卓へ

「ビワマスの冷凍保存」

森田 日出男 さん (モリタフードテクノ21)

「湖魚の産直の試み」

白石 一夫 さん (生活協同組合コープしが)

進行 酒井 明久 さん (滋賀県水産試験場)

高橋 誓 さん (元滋賀県醒井養鱒場長)

## 会場案内

琵琶湖博物館 ホール

滋賀県草津市下物町1091番地

TEL 077-568-4811

### 〔バスの場合〕

JR草津駅西口から近江鉄道バス

「烏丸(からすま)半島」行きで

「琵琶湖博物館前」下車(約25分)すぐ

### 〔車の場合〕

草津市の琵琶湖岸にある「烏丸(からすま)半島」を目指してください。半島の入口付近に駐車場があります。

(駐車サービス券を発行します)

## お問い合わせ

あめのうお倶楽部

電話 0749-25-1983 (林)

E-mail koh-ichi@mx.comcarry.ne.jp (藤原)

平成19年度秋開催

第27回全国豊かな

海づくり大会・

湖づくりキャンペーン

参加事業



| 別記様式第5号<br>うみ<br>湖づくり活動実績書 |   |
|----------------------------|---|
| 活動の分野                      | 山での活動 川での活動 里での活動 <u>湖での活動</u> 全域での活動<br>※中心となる活動の分野いずれかに○を付けてください。   |
| 団体名                        | あめのうお(びわます)倶楽部  |
| 活動名                        | 第1回びわますフォーラムの開催   |
| 実施期間                       | 平成18年 6月1日 ~ 平成18年 7月19日  |
| 実施場所                       | 滋賀県立琵琶湖博物館 ホール  |
| 参加者数                       | 86人   |
| 活動の概要                      | <p>第1回びわますフォーラムを下記の通り開催しました。</p> <p>ビワマスやビワマスをとりまく河川や琵琶湖の環境に対する理解が深まり、<br/>ビワマスの生息する環境を取り戻すことを考えるきっかけづくりとなりました。</p> <p>◇日時： 平成18年7月16日(日) 14:00~16:30</p> <p>◇プログラム：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●14:00~14:40 記念講演<br/>「ビワマスの博物誌」 川那部 浩哉さん(琵琶湖博物館館長)</li> <li>●14:50~16:30 ビワマス最新情報と討論「琵琶湖の幸ビワマス」<br/>「ビワマスの母川回帰と資源の現状」 田中 秀具さん(滋賀県水産試験場)<br/>「ビワマス増殖事業と河川放流の現状」小林 眞さん(滋賀県漁業協同組合連合会)<br/>「ビワマスの旬と漁」 松岡 正富 さん(朝日漁業協同組合)<br/>「ビワマスの冷凍保存」 森田 日出男さん(モリタフードテクノ21)<br/>「湖魚の産直の試み」 白石 一夫さん(生活協同組合コープしが)</li> <li>●17:30~19:00 交流会(会場：レストランにほのうみ)</li> </ul> <p>◇主催 あめのうお(びわます)倶楽部</p> <p>◇共催 ビワマスを琵琶湖のシンボルに育てる会</p> <p>◇後援 滋賀県立琵琶湖博物館/滋賀県漁業協同組合連合会/<br/>生活協同組合コープしが/淡海ネットワークセンター/<br/>第27回全国豊かな海づくり大会滋賀県実行委員会</p> |

## 第1回びわますフォーラム アンケート結果

(回答者数 26人/来場者86人中)

### 1 本日はどちらからお越しですか。

- (1) 滋賀県内 21人
- (2) 滋賀県外 5人〔岐阜(2)、愛知、奈良、三重〕

### 2 びわますフォーラムを何でお知りになりましたか。

- (1) チラシ 5人  
〔琵琶湖博物館、高校(職場)で、淡海ネットワークセンター(2)、その他〕
- (2) あめのうお倶楽部からのお知らせ 5人
- (2) ホームページ 3人  
〔琵琶湖博物館(2)、淡海ネットワークセンター〕
- (4) 知人の紹介 11人
- (5) その他 2人  
〔淡海ネットワークセンターのメールマガジン、野鳥の会の紹介〕

### 3 本日のフォーラムはいかがでしたか。ご自由にご記入ください。

- ・川那部館長さんの「ビワマス」のお話から、私にとっては初めてのことで今回の「びわますフォーラム」は大変参考になりました。ありがとうございました。次回のフォーラムも参加したく思います。
- ・生協の白石さんのお話、とてもいい活動、がんばってほしいです。よし笛の普及と音楽文化の発信をしています。生協もよし笛文化を発信してほしいと思います。
- ・琵琶湖に関すること、様々なこと、情報収集し人前で話すことが多いのですが、魚は何度聞いても覚えられません。琵琶湖の一番の漁業者はカワウと聞きますが、カワウなんか知らないものでしょうか？松岡さんのお話がとてもわかりやすく心がありました。
- ・ビワマスをたくさんとったほうがよいが、漁として難しいことがよくわかりました。産まれた場所より、そだった川に帰ることが、よくわかりました。
- ・いろんな立場の方のお話がとってもよかったです。さしあみを見られてうれしかったです。びわますが当たってうれしかったです。ありがとうございました。
- ・楽しい時間ありがとうございました。一度「あめのうお飯」を食べさせていただいたことがあり、もう一度食べたいものだと思います。ビワマスに関する情報がよくわかりました。

グループ研究活動⑤ ビワマスを琵琶湖のシンボルに育てる

卒塾後の取り組みについて

- ・びわまスの生態から料理方法、食品加工、捕獲の漁の仕方まで深く広く理解が進みました。びわまスを美味しく食卓にのせる調理を試みるのに意欲がわき、他府県の未だ知らない友人・知人にもすすめてゆこうと思いました。大いに勉強になりました。ありがとうございます。
- ・とても勉強になりました。多くのメディアに「びわマス」を取り上げてもらって多くの人が「びわマス」の文字を目にする様になるといいですね。
- ・全くびわまスのことを知らなかったが、様々な角度から話が聞けて、大変参考になりました。南湖でびわマスが回遊し、琵琶湖と河川で普通に見られるようになることを祈ります。
- ・各分野からの話題があり大変勉強になった。ホンマスとアマゴ系の生態や遺伝的なちがい等の話題もあればよかったと思う。特にビワマスの生態についての話を望みます。
- ・ビワマスを食べたことは1回しかないが、おいしかった記憶があります。ぜひ、一般家庭に流通するくらいまで復活されるよう、いろいろな人々が協力していく必要を感じました。
- ・良い企画でした。研究・生産・流通・消費のそれぞれの立場からの発表があったので、とてもよく、現状や課題が理解できました。これからもこのようなフォーラムは続けていっていただきたいと思っています。
- ・それぞれの報告・発表が面白く、内容もよかった。第2回も必ずやってください。協力します。会場の雰囲気もよかった。司会者のセンスがよいフォーラムにつながった。
- ・時間が押ししたのは残念でしたが、内容・演者のバランス、内容ともにたいへんよかったと思います。大変充実していました。ありがとうございました。
- ・現場の漁師さんの話や資源状況などを聴くことができてよかった。ビワマス漁で琵琶湖が活気付くようになってほしいと思った。
- ・今まで、ビワマスについて全く知識がなかったので興味深く聴かせていただきました。
- ・大変有意義に見聞させて頂きました。今後に期待いたしております。
- ・あめのうおが多くの食卓に並ぶように願っております。
- ・ビワマスについての新しい知識を得た よかった！
- ・とても参考になりました。びわマスが好きになりました。
- ・楽しいフォーラムでした。
- ・大変興味深く良かったです。
- ・おもしろい。

以上

『ビワマス・メモ』 発刊の趣旨について

2005. 8. 20

当メモは「おうみ未来塾」でのグループ活動中に、「ビワマスについて知ろう、学ぼう、関心をもとう」と始めたものです。グループメンバーやビワマスに興味を持つ人が、共通認識をもって「ビワマスを南湖に回遊させる」活動に取り組む一助となれば・・・との願いを込めてスタートしました。

【ご参考とお願い】

1. お送りするメモに連番をつけています。後日、どのメモかをフォローしやすくするため、いわゆる整理番号です。

(メモ発信はどなたでもフリーです。ご自由にどうぞ・・・ 連番No. と識別(イニシアル)を適宜おつけください。又、イニシアルは原本の在り処をご存じの方ですので、ご覧になりたい方は、お尋ねください)

2. メモの区切りについては、将来メモをテーマ別(ビワマスについて総合・生態・漁業・食材・環境・文化・歴史など)に集めれば、ビワマスについて編集が出来る様にしたいと思います。

又、メモですから読み易いよう、長くてA4で2枚程度迄を一編にしてはと考えます。

3. 自然科学に関する分野でも、古い年代の情報は修正されることがあります。お気付きの場合は、修正情報をお教えいただけますようお願い致します。

メモとして取り上げる出典の作成時期は数十年に亘っています。この点をご理解の上、新旧情報の判断をお願い致します。

4. メモ情報は、今後の活用に備えてご参考まで、出典、著者、年月日など詳細を末尾に記載していません。

尚、責任ある資料(学術研究その他、著作権を含め、外部発表されるもの等)としてお使いの場合は、ご自身で出典原本を確認の上、ご判断をお願いいたします。

5. 今後のメモについては、みなさんのご意見を頂戴しながら改善して行きたいと存じますので、忌憚のないお考えをおきかせくださいますようお願い致します。

発刊発起人 今井 洋 <mailto:imaigreen@ybb.ne.jp>

『ビワマス・メモ』 発行の現況

2005/9創刊～2006/12最近刊43号迄 内容は目次をご参照ください。

『ビワマス・メモ』 参考として添付

2006/6/18発行 25号 「ビワマス」(山と溪谷社発行『日本の淡水魚』  
著者:川那部浩哉・水野信彦から)

グループ研究活動⑤ ピワマスを琵琶湖のシンボルに育てる

卒業後の取り組みについて

| 『ピワマス・メモ』 目次 |        |     |                        |                   |                 |            |               |
|--------------|--------|-----|------------------------|-------------------|-----------------|------------|---------------|
| 号            | 2005   | テーマ | (表題)                   | (出典)              | (著者)            | (発行日)      | (発行所)         |
| 1            | 9.19   | 総合  | ピワマス                   | 川と湖の魚②            | 川那部浩哉・水野信彦      | 1990.07.31 | 保育社           |
| 2            | 9.19   | 総合  | ピワマス                   | 日本の魚(淡水編)         | 田口哲             | 1990.03.10 | 小学館           |
| 3            | 9.20   | 生態  | ピワマス(北湖にすむ魚たち)         | 琵琶湖のいまとむかし        | 友田淑郎            | 1989.08.30 | 青木書店          |
| 4            | 9.30   | 食材  | ピワマスの刺身(びわ湖を語る50章)     | 知っていますかこの湖を       | 川那部浩哉           | 2001.11.10 | サンライズ出版       |
| 5            | 10.17  | 総合  | ピワマス・ガイド               | 淡水魚ガイドブック         | 桜井淳史・渡辺昌和       | 1998.07.10 | 永岡書店          |
| 6            | 10.23  | 生態  | サケ 壮烈なドラマの一生           | 丹後の海に学ぶ           | 京都府立海洋センター      | 2005.08.08 | 京都新聞出版センター    |
| 7            | 10.23  | 生態  | ピワマスとその回遊              | 琵琶湖の魚             | 今森洋輔            | 2001.11    | 借成社           |
| 8            | 11.28  | 食材  | 鮭は白身魚? 身の赤いのはなぜ?       | 使える環境雑学           |                 | 2005.11.11 |               |
| 9            | 11.28  | 生態  | 湖国の魚・ピワマス              | 湖国びわ湖の魚たち         | 琵琶湖文化会館         | 1986.03.20 | 第一法規出版        |
| 10           | 12.12  | 食材  | 湖魚料理NO1のピワマス           | わたし琵琶湖の漁師です       | 戸田直弘            | 2002.01.20 | 光文社           |
| 11           | 12.12  | 食材  | 湖魚と近江の暮らし              | 湖魚と近江の暮らし         | 堀越昌子            | 2003.06.30 | サンライズ出版       |
|              | (2006) |     |                        |                   |                 |            |               |
| 12           | 1.03   | 歴史  | ピワマスの文化誌(あめのうおの歴史)     | 鮭を越えた魚アマゴヤマメ文化誌   | 鈴野藤夫            | 2000.03.23 | 平凡社           |
| 13           | 2.10   | 歴史  | 滋賀各地ピワマスの歴史            | 鮭を越えた魚アマゴヤマメ文化誌   | 鈴野藤夫            | 2000.03.23 | 平凡社           |
| 14           | 2.21   | 漁業  | ピワマスの漁の変遷              | 鮭を越えた魚アマゴヤマメ文化誌   | 鈴野藤夫            | 2000.03.23 | 平凡社           |
| 15           | 3.15   | 食材  | 最も旨いマス・サケ類は?           | 魚々食紀              | 川那部浩哉           | 2000.05.23 | 平凡社           |
| 16           | 3.15   | 歴史  | ピワマスの古記録               | 魚々食紀              | 川那部浩哉           | 2000.05.23 | 平凡社           |
| 17           | 3.20   | 文化  | アミノウオの祭り               | 魚々食紀              | 川那部浩哉           | 2000.05.23 | 平凡社           |
| 18           | 3.20   | 食材  | なんでもこいのサケ料理            | 魚々食紀              | 川那部浩哉           | 2000.05.23 | 平凡社           |
| 19           | 3.20   | 文化  | 簾村のピワマス句               | 魚々食紀              | 川那部浩哉           | 2000.05.23 | 平凡社           |
| 20           | 4.05   | 総合  | ピワマス[琵琶鱒]              | 魚と貝の大事典           | 魚類文化研究会         | 1997.05.20 | 魚類文化研究会       |
| 21           | 4.05   | 歴史  | ピワマスとヤマメ・アマゴは同祖先?      | 日本の魚系図が明かす進化の謎    | 上野輝弥・坂本一男       | 2004.02.25 | 中央公論新社        |
| 22           | 4.26   | 漁業  | 知内川とピワマス漁              | 琵琶湖流域を読む 上        | 藤岡康弘            |            |               |
| 23           | 4.26   | 漁業  | 漁師から見た琵琶湖              | 漁師から見た琵琶湖         | 松岡正富            | 2000.12.09 | 滋賀の食事文化研究会    |
| 24           | 5.25   | 環境  | 琵琶湖固有種・ピワマス南湖でも遡上産卵復活を | 新聞記事              | 森田真潮            | 2006.04.15 | 毎日新聞          |
| 25           | 6.18   | 総合  | ピワマス                   | 日本の淡水魚            | 川那部浩哉・水野信彦      | 1989.11.01 | 山と溪谷社         |
| 26           | 6.18   | 総合  | ピワマス                   | 学生生物図鑑魚類          | 水野信彦            | 1990.03.15 | 学習研究社         |
| 27           | 7.19   | 総合  | ジャンプ!ピワマス              | こども環境ふれあい通信9号     | こども環境ふれあい通信     | 2003.02    | 滋賀環境保全財団      |
| 28           | 7.19   | 環境  | ピワマスがおどる水環境をめざす        | よみがえれ琵琶湖・淀川       | 琵琶湖・淀川水環境会議     | 1996.12.16 | 日経サイエンス社      |
| 29           | 7.19   | 環境  | 21世紀ピワマスがはねる理想の水環境     | よみがえれ琵琶湖・淀川       | 琵琶湖・淀川水環境会議     | 1996.12.16 | 日経サイエンス社      |
| 30           | 8.19   | 総合  | ピワマス(WEB)について          | WEB魚図鑑            | 小西英人            | 2006.08.10 | WEB魚図鑑HP      |
| 31           | 8.19   | 食材  | ピワマスの食生活覚え書き           | 滋賀の食事文化年報第9号      | 小山久子            | 2000.12.09 | 滋賀の食事文化研究会    |
| 32           | 8.19   | 食材  | アミノイオご飯づくり             | 滋賀の食事文化年報第9号      | 伊藤とよ子           | 2000.12.09 | 滋賀の食事文化研究会    |
| 33           | 9.20   | 環境  | 琵琶湖固有種で重要なピワマス         | 淡水魚第1巻第1号         | 中村守純            | 1975.08.20 | 淡水魚保護協会       |
| 34           | 9.20   | 生態  | ピワマスの近縁種アマゴ系遡上マス       | 淡水魚第1巻第1号         | 木村英造            | 1975.08.20 | 淡水魚保護協会       |
| 35           | 9.20   | 生態  | 琵琶湖魚類の食物連鎖             | 琵琶湖—その環境と水質形成     | 宗宮功             | 2000.03.01 | 技報堂出版         |
| 36           | 10.20  | 生態  | アママスからピワマスを類推する        | 森の歳時記             | 河合雅雄            | 1990.12.05 | 平凡社           |
| 37           | 10.20  | 食材  | クッキングスクールのあめのいお飯       | 台所から考えるエコロジー      | 大阪ガスクッキングスクール滋賀 | 2006.10.13 | 大阪ガスクッキングスクール |
| 38           | 11.20  | 総合  | ピワマス(サケ属)              | 山溪フィールドブックス②淡水魚   | 森文俊・内山りゅう       | 2006.06.10 | 山と溪谷社         |
| 39           | 11.20  | 総合  | ピワマス(琵琶鱒)              | フィールドベスト図鑑6日本の淡水魚 | 志村隆             | 2000.08.04 | 学習研究社         |
| 40           | 12.20  | 文化  | 南浜神社での雨の魚祭り            | 湖魚と近江の暮らし         | 堀越昌子            | 2003.06.30 | サンライズ出版       |
| 41           | 12.20  | 総合  | ピワマス                   | 原色魚類検索図鑑 Ⅲ        | 阿部宗明・落合明        | 1989.05.30 | 北隆館           |
| 42           | 12.21  | 総合  | ピワマスってどんな魚?            | ピワマスの探卵現場見学会資料    | 琵琶湖博物館(桑原雅之)    | 2006.10.29 | 琵琶湖博物館        |
| 43           | 12.21  | 生態  | ピワマスの一生                | ピワマスの探卵現場見学会資料    | 琵琶湖博物館(桑原雅之)    | 2006.10.29 | 琵琶湖博物館        |

『ビワマス・メモ』 参考として添付 2006/6/18発行 25号

ビワマス 2006. 6. 18 Yino. 25

Oncorhynchus masou subsp.

サケ科サケ亜科サケ属 全長 40cm 地方名 マス・アメノウオ(滋賀県)

形態 サツキマスに酷似するが、朱色点は成魚の場合完全に消失している。側線上部および下部の横列鱗数がサツキマスやアマゴに比べて明らかに多いとの記載もあるが、筆者の再調査の結果ではその差は明らかではない。幽門垂数はビワマスでは  $56.9 \pm 6.6$  で、サツキマスの  $48.3 \pm 5.9$ 、新潟産のサクラマスの  $48.3 \pm 6.7$  と比べると、ビワマスのほうが10本近く多い。

頭長に対する眼径の比は、ビワマスで  $0.169 \pm 0.028$ 、サツキマスで  $0.134 \pm 0.011$ 、サクラマスで  $0.100 \pm 0.013$  と、ビワマスの眼径がほかの2者に比べて相対的に大きい。このためビワマスは顔つきがやさしく感じられる。漁師は、ビワマスと最近琵琶湖で増加しているアマゴの降湖個体とを即座に判別する。

河川生活期の稚魚は“サツキ”と呼ばれ、アマゴよりも淡い橙色の斑点が側線付近に集中して存在するが、降湖とともにすみやかに消失する。

分布 琵琶湖にのみ自然分布している日本固有の亜種。現在は長野県木崎湖、芦ノ湖、日光中禅寺湖に移殖されている。中禅寺湖の“ホンマス”はビワマスといわれている。

生活 9月～11月上旬にかけて、特に雨のあとの増水時に、産卵のため琵琶湖より遡上する。その上限は、安曇川では市場付近、愛知川では永源寺付近で、これより上流すなわちアマゴ域までは遡上していなかったと伝えられている。直径50cm程度の産卵床を雌が掘るといって産卵行動はほかのサケ・マスと同様である。稚魚は翌春5～6月に全長8～10cmで疑似スマルトになり、梅雨の増水ですべての個体が降湖する。

河川生活期の稚魚“サツキ”は小型の水生昆虫や陸生昆虫を捕食し、湖中の未成魚はヨコエビなどの甲殻類を、成魚は湖中のアユやイサザなどの魚類とヨコエビを主に食う。夏、湖中での遊泳層は水温15℃付近、すなわち水深15～20mの躍層(水温が急激に低下する層)直下で、捕食時にのみ水温20～25℃の表層に出撃し、群れアユを捕食するらしい。高温で餌の多い表層で捕食し、低温の躍層下で休息するのがふつうで、夏季の琵琶湖の水温が上下で大きく違うことを巧みに利用して生活している。

1年で20cm、2年で30cm、3年で40cm、4年で40～50cmに成長するが、サツキマスやサクラマスに比べて成長は遅い。

利用 6-7月の成魚は脂がのり、刺身、塩焼き、照焼き、煮つけ、マリネ、フライにして究極至高の味。ただ残念なことに、琵琶湖の富栄養化と汚染のにおいが、のどの奥に感しられる。

備考 現在河川でのビワマスは、その稚魚も、産卵のために遡上する成魚もともに全面禁漁である。遡上する成魚の一部が人工採卵、孵化、放流のために河口で捕獲され、知内にある1カ所の孵化場で種苗が生産されている。

しかし、1カ所で集中して種苗生産するのは、ウィルス性の伝染病があつという間に広がるなど、危険性が高い。また少数の親魚からの採卵、受精は遺伝的多様性を消失させる行為でもある。現在の人工種苗生産の方法は、時には人工増殖ならぬ人工絶滅に荷担する危険性もある。将来を見越して、ビワマスが自然に産卵できるまともな琵琶湖流入河川を1本でも2本でも保全また再生することが何よりも重要である。

ビワマスは従来アマゴの降湖個体と考えられていたが、形態的特徴・ミトコンドリア DNA の分析結果などから他2亜種よりもこれが特に離れている。川を下る時期、上る時期もまったく違い、別亜種とみなすべきかもしれない。  
(古川哲夫)

出典:山溪カラー名鑑「日本の淡水魚」編・監修:川那部浩哉・水野信彦・細谷和海

編集:香川長生 森文俊 阿部正之 内山りゅう 編集協力:オフィス・ユウ

発行所:株式会社 山と溪谷社 1989年11月1日初版1刷発行 2001年8月25日 3版1刷発行

# ろうごさぽーとたい 老後サポート隊

老後サポート隊

メンバー

荒川 進、 一色三郎、 戸田雄一、 吉野 和

少子高齢化が進み、高齢者の生活環境はますます厳しくなるといわれています。自らの老後を住み慣れた地域で過ごすためには、高齢者相互の支えあいを整えることで可能になることがあるだろうと考えました。安心して老後を暮らすために必要な事柄を明らかにするため、地域調査の実施と実践につながるよう取り組みました。

## 今から 10 年後の日本の姿

(資料) 毎日新聞 掲載「未来が見えますか」より

### \* 国の収入

- ・人口減＝労働人口減＝税収減

6600 万人→ (6250 万人)

- ・若者の労働者減 (少子化) : 合計特殊出生率 1.29 人
- ・フリーターの増加 : 410 万人→ (460 万人)
- ・ニートの増加 : 75 万人→ (137 万人)
- ・参考 : 正社員がフリーターになると 1.2 兆円の税収減 (2001 年度)

### \* 国の支出

- ・年金受給者の増加
- ・高齢化による医療費の負担増 31 兆円→ (50 兆円)
- ・介護サービスの利用者 336 万人→ (640 万人)  
(要支援・要介護 1 給付額 1 兆円) / 2004 年度

### \* 10 年後の姿

- ・外国人労働者の増加 76 万人→ (140 万人)
- ・サラリーマンの収入 43 万円/月→ (48 万円)  
(年間で 5000 円の UP)
- ・貯蓄率 : 7.7%→ (3.4%)
- ・晩婚化・少子化が進む
- ・年金基金 : 237 兆円→ (182 兆円)
- ・医療負担 : 3 割→ (4 割)
- ・介護保険料徴収 : 40 歳→ (20 歳)
- ・消費税 : 5%→ (10%)
- ・税収として 10 兆円の増

結論 : 国などの補助に頼れない時代に突入する。

(国家としての蓄えがなくなる。少子高齢化は止められない。)

自分の老後は自らが守らないと生きていけない時代が来る。

(仮) 老後サポート隊 実行計画書

2005年6月1日作成

|         |        |                          |                                     |
|---------|--------|--------------------------|-------------------------------------|
| 2005年6月 |        |                          |                                     |
| 7月      | ・指導会   | ・安心して老後を暮らすには何が必要か       |                                     |
| 8月      |        | ① これから老後を迎える人の声を集める      | ・すでに実施している地域の実態調査                   |
| 9月      |        | ② 行政の取り組みは               | ① 部分的に実施している事例<br>② システムが確立している事例   |
| 10月     |        | ・具体的の方策を検討しカリキュラムを作成する   | ・モデル地域の調査                           |
| 11月     | ・中間発表  | ・例えば「健康」「生きがい」「仲間」「お金」など | ① 100世帯、平均年齢65歳介護認定率20%以下           |
| 12月     |        |                          | ・サポートシステムの観点から全体を見た方策を検討            |
| 1月      |        |                          | ・点の情報を面でとらえる                        |
| 2月      |        |                          |                                     |
| 3月      | ・卒塾報告会 |                          | ・モデル地域に導入<br>・当面は部分的でも実践し机上論で終わらない事 |
|         |        |                          | ・老後サポートシステムの確立<br>・マニュアル作成          |

\*イメージ図

- ・有料老人ホーム
- ・介護施設
- ・共同住宅  
(コレクティブハウス)
- ・別荘(含む海外)

お金のある人

・2004年 死亡者数=103万人  
 ①悪性新生物： 32万人  
 ②心疾患： 16万人  
 ③脳血管疾患：13万人

自殺 32,325人

- ・子どもと同居
- ・兄弟、親戚と生活
- ・友人、知人と生活

身よりのある人

空家

|   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|
| ○ | □ | □ | ● | ○ | ● |
| △ | ● | ○ | △ | □ |   |
| ● | △ | △ |   |   | □ |
| □ | ○ | □ | ● | ○ | ○ |
| △ | □ | ● |   |   | △ |
| ○ | ● | □ | ○ | □ | ● |
|   | □ |   | □ |   |   |
| ● |   | ○ | △ | ○ | □ |
| □ | ○ |   | ● | □ |   |
|   | ● | ● |   | ○ | ● |
| □ | △ | △ | □ |   | □ |

夫婦で生活

- ・子どもに相談する
- ・一人になれば施設でも・・・
- ・将来についてはこれから
- ・老後の蓄えが必要

(自殺)  
 7年連続3万人を超える  
 ・男性が70%  
 ・年代別 60歳以上：1.1万人  
 (50歳以上が約60%)  
 ・動機 ①健康問題  
 ②経済問題

一人暮らし

- ・住み慣れた所がいい
- ・年金が頼り
- ・生活保護を受けている
- ・詐欺などの被害経験(3割)

老後サポート隊 議事録（第1回）

日時：7月8日（金）PM5：30～PM7：30

場所：守山市民活動センター

出席：荒川、吉野、一色

- ・大きな流れとして、①問題点をつかむ。②対策の立案 ③実践する  
但し、一回の行動で次のステップへ進めない時は何回か繰り返す。
- ・調査の対象は最初から絞って、60歳以上で一人暮らしか夫婦だけの世帯とする。
- ・卒塾報告会では一部でもよいから実践結果の報告ができよう努力する。

\*当面の動き

- ・7月12日：彦根宅老所でアンケート調査する。（アンケート用紙は吉野担当）  
（アンケート用紙の内容見直し）
- ・7月15日：アンケート用紙の改訂版で各人、身近なところでアンケート実施
- ・7月31日：6期生の会合にアンケート用紙持参…アンケート方法見直し  
6期生のメンバーにアンケートを依頼する
- ・8月3日（水）PM5：30から 守山市民活動センターにて  
大学組は前回と同じ県立大学バス停集合（PM4：30）

（注）・開催場所は守山を中心に彦根でも開催する。

- ・提案：7月31日、我々のグループだけで午後1時集合にしませんか？

6期生の方々には事前にアンケート用紙の見直しが必要かと思えます。

\*アンケート用紙 作成上の注意点

- ・年齢、男女、居住形態（一人住まい、夫婦、その他）
- ・質問内容  
（気持ち）・寂しいと感じますか…それはどんな時ですか
  - ・話相手はおられますか…どのようなお方ですか
  - ・楽しいことはありますか…それはどんな時ですか
  - ・困ったことはありますか…それはどんな時ですか
- （生活）・食事はどのようにされていますか
  - ・掃除、洗濯は
  - ・買い物は
- （健康）・通院はされていますか
  - ・何か体に良い事をされていますか（例えば、運動とか）
- （経済面）・お金の面での見通しは大丈夫ですか  
現状の問題点を見つける為の質問内容にしてください。

以上

老後支援のためのアンケート

調査日 H17年 月 日 調査場所 ( ) 担当 ( )

おうみ未来塾で老後支援のための調査をしています。

そこで、高齢者の皆様の現状を把握する為 下記の項目の質問にご協力をお願いします。

この資料は調査以外には使用しませんので安心してお答えください。

・年齢：満 ( ) 歳 性別： 男 女

- Q1 現在の暮らし方について ・ひとり暮らし ・夫婦のみ  
 ・その他 ( )
- Q2 ひとり暮らしと回答された方への質問： その期間は ( )
- Q3 お身内や家族（同居以外）との触れ合いは  
 ・週に1回以上会う ・月に1回以上会う ・年に何回か会う  
 ・電話か手紙のやりとり ・全く接触がない  
 ・その他 ( )
- Q4 毎日の食事はどのようにされていますか  
 ( )
- Q5 洗濯や掃除はどのようにされていますか  
 ( )
- Q6 買い物や用事などで外にでかけることはありますか  
 ・積極的に出かける ・必要なら出かける ・ほとんど出かけない
- Q7 日頃、運動（散歩など）はされていますか ・はい ・いいえ  
 どんな ( )
- Q8 健康状態で何か不安や問題はありますか ・はい ・いいえ  
 具体的に ( )
- Q9 生活面での経済的な不安はありますか ・はい ・いいえ
- Q10 身近に話相手はいますか ・はい ・いいえ  
 その相手は ( )
- Q11 お友達はいますか ・はい ・いいえ
- Q12 楽しみや生きがいはありますか ・はい ・いいえ  
 どんな事 ( )
- Q13 生活の中でつらいと感じる事はありますか ・はい ・いいえ  
 どんな事 ( )
- Q14 生活の中で、寂しいと感じるときはありますか ・はい ・いいえ  
 どんな時 ( )
- Q15 交通手段を教えてください  
 ・徒歩 ・自転車 ・車（自家用、タクシー、バス）  
 ・その他 ( )  
 ・意見、感想など

老後支援のためのアンケート調査結果（プレ調査）

調査日：2005年7月12日

調査場所：彦根市 サロンいこいの部屋 利用者12名（全員女性） 60歳代…2名

調査方法：一同に集めての個別記入方式 70歳代…4名

調査担当：一色 80歳代…5名

90歳代…1名

- Q1 生活形態 ・一人暮らし…2名 ・夫婦のみ…2名  
 ・子供…6名 ・夫婦、子供…2名
- Q2 一人暮らしの方へ：一人暮らしの期間は…2年、17年  
 ・身内との触れ合いは…週1回以上（1人）  
 年3～4回（1人）
- Q3 食事は ・嫁（6人）・自分（5人）・娘（1人）
- Q4 洗濯や掃除は ・自分（9人）・嫁（1人）・娘（1人）
- Q5 外出は ・積極的（5人）・必要に応じて（7人）
- Q6 運動は ・する（6人）・しない（6人）
- Q7 健康への不安 ・ある（5人）・ない（7人）  
 「足痛（9）、お腹、肩こり、首痛」
- Q8 経済的な不安は ・ある（1人）・ない（10人）・未記入（1人）
- Q9 話相手は ・いる（10人）・いない（2人）  
 「友達（9）、夫（3）、近所の人（2）家族（1）、子供（1）（重複回答あり）」
- Q10 お友達は ・いる（10人）・いない（2人）
- Q11 楽しみや  
 生きがいは ・ある（9人）・ない（3人）  
 「畑仕事（3）、絵手紙（3）、趣味（3）、読書（2）、短歌、カラオケ、  
 園芸、生花、草取り」
- Q12 日常生活で  
 つらい事は ・ある（6人）・ない（9人）・未記入（1人）  
 「耳が遠い（2）、足腰が弱くなった、体が思うように動かない  
 夫の病気、膝痛、足痛」
- Q13 寂しい事は ・ある（2人）・ない（9人）・未記入（1人）  
 「話し相手がない（2）」

- \*記入欄・老後の経済面が不安（60代）  
 ・気楽に旅行ができるシステム（70代）  
 ・病院に行くときの交通手段（70代）  
 ・健康が維持できなくなったときに不安（70代）

- \*担当者の所感  
 ・一部アンケートの見直しが必要  
 ・今回は女性のみ、お金の不安のない人が大半、楽しみや生きがいのある人が多く一人暮らし（2）夫婦のみ（2）と狙いとする対象者が少なかった。  
 次回は、意識的に男性、一人暮らし、夫婦のみ、生活に困っている人を対象に調査したい。  
 以上

老後サポートグループ 中間報告（要約）

\*企画

- ・メンバー：4名（彦根、守山、浅井、奈良）
- ・テーマ：老後を楽しく乗り切る為のしくみ作り
- ・趣旨：同じ地で「終」を向かえる仲間同士が協力して楽しい余生を送るための方策を考える。
- ・卒業時の姿：一部実践している報告を目指す。

\*実施結果 ①アンケート調査：27名（男8名、女19名）

メンバーの近隣にいる高齢者

- ・ほとんどの人が現状に満足しており老後の不安なし。
- ・6期生の周辺ではなく、直接高齢者の生活状況を把握している「民生委員」から情報を集めるべき。

②行政の取り組み方：守山ふれあい訪問活動

- ・約1万人の高齢者の内、独居、老夫婦のフォロー
- ・問題提起・相談が中心。個人対応は難しい

③民生委員に聞く。

- ・全般的にガードが固く民生委員と云えども拒否。他人からの干渉を嫌う。

\*今後の展開

- ・民生委員の協力を得ながら「人集め」をお願いし、「会」の運営を未来塾生が担当しモデル例を参考に「実践」に向けての準備を行う。
- ・実践予定：彦根市 太平団地  
250世帯、780人、高齢者96人（高齢化率 12%）  
比較的歴史が浅い。自治会長：毎年交代  
サロンなどに関心なし。近隣の交流はごく一部。

\*彦根市 民生委員に聞く

・自治会は一年毎に役員が変更するため、年初に建てた計画以外には積極的に活動しない。(自ら役員となってリーダーシップをとるか、計画立案時から、参画する必要がある。)

・高齢化は心配であるが、今、取り立てて討論すべきテーマではない。また、全体の雰囲気としては時期尚早なのは。

・リーダー役として強い意志を持って引っ張る人材がいない。

・各家庭の実態を把握するのは、プライバシーを侵害する恐れがあり、民生委員でも至難の業である。(守山市でも同じ回答あり)

(結論)・全体を動かす事を考えずに小さなテーマで実施してその数を増やし、結果として対象者を増やすよう、方向転換する。

\* 自分の体は、自分で守る。 ために

・家庭でできる「からだづくり」・・・2005年11月実施(参加者10名)4月から始まる「介護予防」の一環で市、介護福祉課と調整中。

・「ひこね元気計画21」実行委員会のウォーキング・運動チームで毎月第1月曜の午後、認定された25コースを一緒に歩く企画。

・・・年四回「元気だより」を発行、現在では毎回20名以上が参加。2007年3月開催の彦根城400年祭に結びつける為、市観光課、健康管理課と調整中。

・宅老所での「折り紙教室」・・・2006年1月から月2回実施

最初は6名でスタート、現在10名

認知症予防として各地域毎に「折り紙講師」を育成して推進予定

・みんなで楽しく歌って元気になろう・・・2005年8月から開始

2ヶ月に一回、計四回実施

1回30名以上参加

・男の料理教室・・・2005年12月から月1回実施、16名参加

**\*反省**

- ・地域プロデューサー（地域の問題を発見、方策を考え、実践する）あるべき姿に近い活動はできたが未来塾の特長であるグループ研究が途中で頓挫したのが残念である。
- ・新聞、本、報告書などから「こんなはずでは」と思って計画していたことが、実態と比べてみると大きな隔たりがあった。
- ・「計画」だけの机上論で終わりたくないとの想いで取り組んできたが独りの力では点の活動でしかなく面の活動に展開できなかった。

**\*今後の課題**

- ・行政の強み（信頼、経験、人材）と弱み（重点づけ、小回り、細部）を良く理解し、お互いの強みを表に出して実践に繋げたい。
- ・「自立」の観点から高齢者が高齢者に教えることで、お互いの健康を維持し助け合える地域を作りあげたい。
- ・自分の想い（企画）を十分に練って、行政を口説き落とすぐらいのパワーで夢の実現に向けて挑戦し続けたい。

次世代へ・・・

—おうみ未来塾6期生活動記録誌—

2007年3月

編集：おうみ未来塾第6期生

発行：(財)淡海文化振興財団

〒520-0801 滋賀県大津市におの浜 1-1-20

TEL 077-524-8440

FAX 077-524-8442

印刷：(株)スマイ印刷工業

禁無断転載